

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

軍機秘

10-2

昭和十八年度

第一回總力戦机上演習關係書類

Proj. No. 113
S. A. No. 150221
Sack No.
Item No. 70

總力戦研究所調製

文書番号	總研甲第 六 號
一連番号	第 5 號
調製年月日	昭和十八年 六月 二十二日
調製部数	拾 貳 部
戻却要ス	

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A
	14
	10-2

昭和十八年十一月二十一日 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

昭和十八年十一月二十一日

陸軍省 陸軍部

原本不明瞭

めくれず

第五期ニ對スル第一―第六内閣ノ概観
第四期情形
第四期ニ對スル第一―第六内閣ノ概観
第三期情形
第三期ニ對スル第一―第六内閣ノ概観
第二期情形
第二期ニ對スル第一―第六内閣ノ概観
第一期以來ノ概観
維力殿机上演習研究會次第

109 101 100 94 93 86 85 75

軍極秘

第一回總机演第一號

昭和十八年五月六日

總力戰研究所長 村上啓作 陸軍中將

昭和十八年度第一回總力戰机上演習一級計畫左ノ通定ム

一、實施時期 六月十一日より同十九日迄

二、演習ノ目的 前段講義演習ヲ終リタル時段ニ於テ爾後ノ研究ノ着眼點
及重要問題ヲ發見スルニ在リ

三、演習統監 總力戰研究所長

同 補佐官 同 主事

同 補助官 同 武力戰主任所員

指 定 配 付 者
處 理 演習終了後直ニ返却

... 研究員 ... 審判官 ... 總力戦研究所員 ... 三期研究生全員 ... 各研究室 ... 内閣卜假定ス ... 清況及課題ヲ以テ各内閣ノ判断及處置ヲ求メ其ノ都度討論會ヲ開キ ... 審判又ハ問題抽出ヲ行フ

四 統監部員及審判官 總力戦研究所員

三 演習員 第三期研究生全員

六 演習實施

(一) 各研究室ヲ一内閣卜假定ス

(二) 清況及課題ヲ以テ各内閣ノ判断及處置ヲ求メ其ノ都度討論會ヲ開キ
審判又ハ問題抽出ヲ行フ

(終)

軍極秘

第一回總機演第二號

昭和十八年度第一回總力戰机上演習實施計畫本書ノ通定ム

昭和十八年五月十二日

第一回總力戰机上演習統監

村上啓作

指 定	
配 付 者	
處 理	演習終了後直ニ返却

昭和十八年度第一回總力戦机上演習實施計畫

一、演習編制及任務

別紙第一ノ通り

二、演習指導要領

別ニ定ム

三、演習日程

別紙第二ノ通り

四、演習實施要領

〔統監ハ演習指導要領ニ基キ各「動」ノ初頭ニ「情况及課題」ヲ演習内閣ニ交付ス

〔演習内閣ハ現行官制其ノ他ノ諸法規ニ基ク權限内ニ於テ「情况及課題」ニ對シ執ラントスル處置ヲ簡明ニ記述シ統監部及關係審判部ニ提出ス

處置記載用紙ハ別ニ配付ス

三 毎「動」處置提出後討論會ヲ開催ス

討論會ハ統監補佐官之ヲ主催シ重要事項ヲ取リ上げ問題ノ所在及着眼點ノ抽出ヲ行フ

四 指導要領ニ基キ所要ノ審判ヲ行ヒ「動」ヲ進ム

五 研究会

研究会次第別紙第三ノ通

六 雜件

〔本演習ノ内容ニ就テハ特ニ之ガ機密保持ニ留意スルモノトス
〔至割ヲ左ノ通定ム

統監部及審判部 教室

演習内閣 各研究室

討論會、研究会 講堂

第一回總力戰機二號別紙第一

昭和十八年度第一回總力戰機上演習指導部ノ編制及任務

部分	演習職名	官	氏名	演習主務
統	統監	所	長村 上啓作	全般統裁
統	統監補佐官	主	事小川 貫羅	統監補佐
統	統監補助官	所	員白 尚義	演習事務一設
統	判	同	安 中 忠 雄	同
統	判	同	堀 口 菊 郎	同
統	判	同	梶 庭 次 郎	同
統	判	同	大 庭 次 郎	同
統	判	同	磐 瀨 太 郎	同
統	判	同	藤 卷 吉 生	同
統	判	同	久 保 英 蔵 呂	同
統	判	同	手 眞 野 源 太郎	同
統	判	同	同	同

（Faint vertical text, likely a list of names or roles, mostly illegible due to low contrast and blurring.)

第一回總機演習第二號別紙第二

昭和十八年度第一回總力戰机上演習日程

月日	曜日	時刻	作業	演習曆	大		事
					一	二	
一一	金	〇八三〇	第一動情況交付	第一動 昭和十八年七月、八月、九月	一	二	一 九 土
一一〇〇		〇八三〇	處置提出		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	討論會	第二動 同十月、十一月、十二月	一	二	一 八 金
一一〇〇		〇八三〇	第二動情況交付		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	處置提出	第三動 昭和十九年一月、二月、三月	一	二	一 七 木
一一〇〇		〇八三〇	討論會		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	第三動情況交付	第四動 同四月、五月、六月	一	二	一 六 水
一一〇〇		〇八三〇	處置提出		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	討論會	第五動 同七月、八月、九月	一	二	一 五 火
一一〇〇		〇八三〇	第四動情況交付		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	處置提出	第六動 同十月、十一月、十二月	一	二	一 四 月
一一〇〇		〇八三〇	討論會		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	第五動情況交付	休	一	二	一 三 日
一一〇〇		〇八三〇	處置提出		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	討論會	第六動 同十月、十一月、十二月	一	二	一 二 土
一一〇〇		〇八三〇	第六動情況交付		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	處置提出	整理	一	二	一 一 金
一一〇〇		〇八三〇	討論會、演習中止		一	二	
一一〇〇		〇八三〇	研究會	研究會、統整訓示、演習終結	一	二	一 〇 土
一一〇〇		〇八三〇	研究會		一	二	

一日程ハ演習進行ノ情況ニ依リ適宜變更スルコトアリ

裏面白紙

第一回總机演第二號別紙第三

昭和十八年度第一回總力戰机上演習研究會次第

日	時刻	壬 日 九 十	
		一四〇〇	一五〇〇
陳述事項	一、開會	二、演習指導ノ要點	三、大東亞新秩序建設方略研究上ノ着眼點ニ關スル所見
			(イ) 武力戰關係 (ロ) 外交戰關係 (ハ) 思想戰關係 (ニ) 經濟戰關係 四、總力戰的見地ニ基ク皇國刻下ノ重要問題
陳述者	統監補助官 各審判部指定審判官	五、今次机上演習ニ關スル所見	六、一般所見
		七、統監訓示	八、閉會
一、研究會主催者ヲ統監補佐官トス 二、陳述ハ軍機又ハ國家機密ニ觸レズ且個人ニ對スル批判ヲ避クルモノトス 三、演習員ノ陳述ニ對シ審判官ハ質問又ハ所見ヲ附加スルコトヲ得 四、陳述ハ簡明ヲ旨トシ併セテ文書ヲ以テ提出スルモノトス			

裏面白紙

第一回總机演第三號

昭和十八年第一回總力戦机上演習指導要領本書ノ通定ム

昭和十八年五月二十四日

第一回總力戦机上演習統監 村上啓作

配 付 者	指 定
處 理	演習終了後直ニ返却

めくれず

昭和十八年度第一回總力戰机上演習指導要領

昭和十八年度第一回總力戰机上演習ハ同演習實施計畫ニ基キ左ノ要領ニ依リ之ヲ指導ス

一、情況及問題

□ 想定骨子及研究問題基礎案並ニ情況案別冊ノ通別冊ハ演習員ニ配付セズ

□ 「情況」ハ演習開始當時ノ實際ノ情勢又ハ演習進展ノ狀況ニ依リ適宜改訂スルコトアリ

□ 「情況」交付ノ際要スレバ補足的説明ヲ行ヒ處置ノ範圍ヲ指示ス

二、處置

□ 處置ハ與ヘタル時間内ニ於テ研究シ得ル概念的程度ニ止メ、所外ニ於ケル調査、綿密ナル數量ノ研討等ヲ要求セズ

□ 處置答申ハ一問題一枚ヲ標準トシ要點ヲ簡明ニ記載シ統監部及各審判部ニ一通宛提出セシムルト共ニ別ニ討論會用トシテ全員ニ配付ス

ル如ク印刷ス

三 討 論

〔毎「動」ノ討論會ニ於テハ處置答申中ヨリ各部門一乃至二問題ヲ撰
擇シ討論ヲ行フ

殘餘ノ問題ニ關シテハ之ニ對スル注意ヲ喚起スル程度トス

〔中間及最後ノ討論會ニ於テハ重要問題又ハ討論未済問題ヲ取上ゲ

〔討論會ニ於ケル陳述ハ各室毎ニ當番ヲ定メ輪番之ニ當ラシム

當番以外ノ者ノ發言ハ主催者ノ指名ニヨル

〔主催者ハ適宜審判官ノ所見ヲ求ム

四 審 判

〔審判ハ其ノ可能ナルモノニ付討論後之ヲ行フカ又ハ次「動」情況ヲ
以テ之ヲ示ス

〔審判ハ冬審判部ニ於テ準備シ統監部ニ於テ決定ノ上之ヲ演習員ニ與
フ

五訓示

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス
本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

本演習ニ於テハ諒評ヲ行ハズ研究會ノ訓示ヲ以テ指導ノ終末トス

(終)

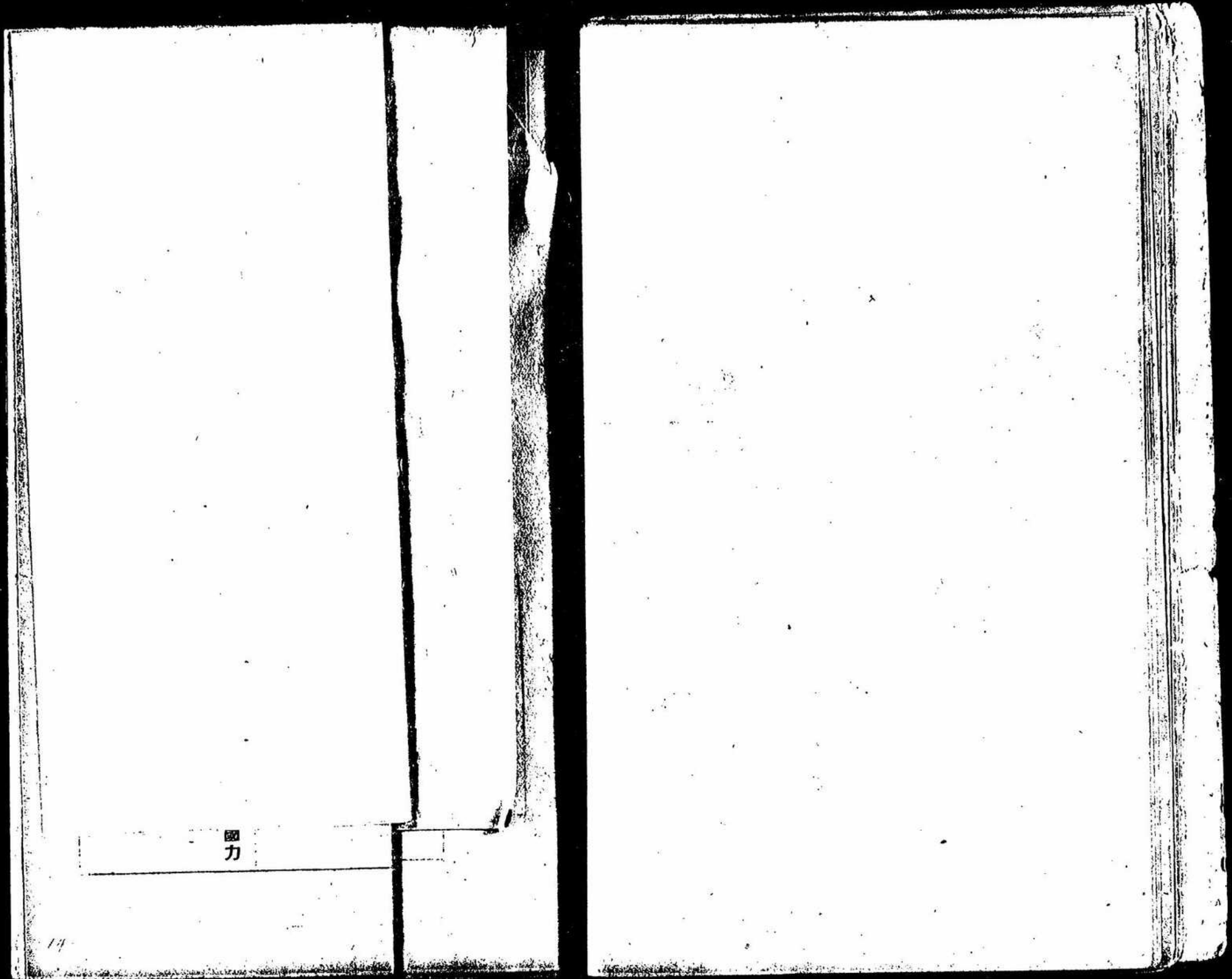
第一回總機演第三號別冊

軍機

演習員二秘

陸軍省 所員

昭和十八年度第一回總力戰机上演習
想定骨子及研究問題並ニ情況基礎案



カ

別紙第一 昭和十八年度第一回總力戦机上演習想定骨子及研究問題 (基礎案)

功時 期	軍		政		經		軍
	東	亞	東	亞	東	亞	
(十八年) 七月 八月 九月	○七月南支方面敵空襲 ○八月鳴神島ニ敵上陸敵戦 ○九月第二次「アリユシヤ ン」海戦兩軍損害相當大	○副内閣横行、統制不徹底 ○智識層中戦局疑惑、 ○都會人ニ緊張チ欠クモ ノ爾多シ ○ソ聯ノ對日態度不變 ○獨ソ調停	○麥實收高二〇〇萬石 ○昨年ヨリ五〇萬石減 ○九月大暴風 ○米ノ豫想收穫高六千萬石	○地中海方面航空戰 ○獨ノ夏季攻勢進展 ○昨年ノ約四分ノ三 ○米英軍「チユニジ 西亞方面ニ集中			
二 十一月 十二月	○在支米空軍增加航空戰連 ○緬印航空戰活潑 ○空襲回數昨年ノ約二倍 ○澳洲印度海域ニ於ケル我 潜水艦ノ活躍顯著	○國民生活益逼迫 ○支那ノ食糧衣料不足及 物價騰貴深刻 ○米英重慶印度會談 ○緬甸獨立	○米ノ實收高九〇〇萬石 ○昨年ヨリ八〇〇萬石減 ○朝鮮二〇〇萬石 ○臺灣二期計八〇〇萬石 ○十二月迄ノ造船計畫通 ○船舶喪失〇〇萬屯	○十月敵軍「シシ 「サルヂニヤ」上 地中海海戦 ○十二月ソ聯攻勢ニ ズ太ナル進展ナシ			
三 二月 三月	○「ニヤキニヤ」方面航空戰 輸送破壊戰運激化 ○二月印度及雲南ヨリ敵反 攻 ○敵艦隊印度洋ニ活動 「アソマン」諸島ニ來襲	○議會ハ生産力増強對策 ノ徹底要望 ○印度ノ反英下火	○十八年度製鋼 普通鋼々材〇〇萬屯	○一月「トルコ」反 軸ニ參戰 ○英艦隊ノ一部黑海 入			
四 四月 五月 六月	○五月以降支那ヨリ西日本 空襲頻繁被害甚大	○米英ハ泰國人ヲ敵國人 扱ニセズト聲明 ○空襲被害流言多シ ○政府部内ニ戒嚴令施行 意見アリ	○南方產業開發撥本順調 ○商船ノ被害甚大	○獨對土戰戰烈「 タ」孤立「ルー ヤ」油田猛爆 ○敵ノ「バルカン 陸失敗			
五 七月 八月 九月	○七月以降「ニヤキニヤ」方 面陸空戰熾烈、油田地帯 空襲 ○九月敵機東京空襲 被害相當大	○指導層ニ戰局不安感 ○比島人ノ一部動搖	○南方油田損害三分ノ一	○獨ソ戰獨軍優勢 モ大ナル進展ナ ○英國北部ニ船舶			
六 十月 十一月 十二月	○十月北太平洋海戦 兩軍大損害	○支那人漸次不遜 ○米ハ日本稍誇張宣傳	○米麥ノ實收昨年ト同程 ○船舶喪失〇〇萬屯	○獨空軍海上作戰 向上 ○十月米英亞諾威 失敗			

演習想定骨子及研究問題 (基礎案)

演習想定骨子		研究問題	
経済	政治	経済	政治
<p>○米ノ實收高九〇〇萬石 昨年ヨリ八〇〇萬石減 朝鮮二〇〇萬石 臺灣二期計八〇〇萬石 ○十二月迄ノ造船計畫通 ○船舶喪失〇〇萬屯</p>	<p>○十月敵軍「シシリ」 「サルヂニヤ」上陸 地中海海戦 ○十二月ソ聯攻勢ニ轉 ズ大ナル進展ナシ</p>	<p>○西葡ハ中立維持ニ 汲々タリ ○米英戰局有利獨ノ 戰力低下ヲ大宣傳 特ニ對伊工作猛烈</p>	<p>○獨ノ通商破壊戰戰 果昨年度ノ八〇% ○米ノ生産計畫ノ九 〇%</p>
<p>○南方産葉開採備ネ順調 ○商船ノ被害甚大</p>	<p>○一月「トルコ」反樞 軸側ニ參戰 ○英艦隊ノ一部黒海進 入 ○二月米伯軍「アソレ ス」諸島ニ進駐</p>	<p>○米英輪獨打倒第一 主戦多シ ○獨ヨリ日獨伊會談 提案</p>	<p>○樞軸提携強化方策 ○敵ノ對日企圖 ○鐵、アルミ ○教育、勞務</p>
<p>○南方油田埋藏三分ノ一</p>	<p>○獨對土戰戰烈「クレ タ」孤立「ルーマニ ヤ」油田猛爆 ○敵ノ「バルカン」上 陸失敗</p>	<p>○「バルカン」諸邦 動搖大 ○獨ハ佛ヲ軍制下ニ 置ク ○亞國中立交渉ノ微 アリ</p>	<p>○防空及空襲被害對策 ○戒嚴、防諜 ○輸送力</p>
<p>○米麥ノ實收昨年ト同程 度 ○船舶喪失〇〇萬屯</p>	<p>○獨ソ戰獨軍優勢ナル モ大ナル進展ナシ ○英國北部ニ船舶集中</p>	<p>○獨ハ西葡進駐ノ意 ナシ但警戒至嚴 ○西統領及法王ノ和 平演説</p>	<p>○國民指導 ○西葡ノ中立 ○敵ノ對日企圖 ○石油</p>
<p>○獨空軍海上作戦能力 向上 ○十月米英軍諾威上陸 失敗</p>	<p>○米英ハ樞軸無條 件降服迄戦フ旨宣 言</p>	<p>○獨ノ通商破壊戰戰 果昨年度ト同程度</p>	<p>○攻勢防禦作戦ト國力 増進 ○戰爭指導方針</p>

習員

裏面白紙

第一勅(十八年七月、八月、九月)情況(案)

大東亞關係	歐洲關係
<p>一、七月中昆明桂林方面ヨリ廣東、香港、海南島ニ敵空襲三回、商船三沈没、内一隻ハ六千噸級鐵石運搬船</p> <p>二、八月三十日「キスカ」島ニ敵軍上陸激戦中</p> <p>三、九月三日第二次「アリユウシヤン」海戦敵空母一、巡三、驅四撃沈、我巡三、驅二沈没</p> <p>四、三ヶ月間ノ航空戦及潜水艦戦</p> <p>撃墜破 一〇〇〇機 我損害 〇〇〇機</p> <p>商船撃沈 二五萬噸 我喪失 〇〇萬噸</p> <p>一、ソ聯ノ對日態度ニ變化ヲ認メズ</p>	<p>一、地中海方面ノ航空戦激烈ナリ、米英空軍ノ主目標伊ノ工場地帯及軍艦、獨伊空軍ノ主目標ハ交通船</p> <p>二、獨ノ對ソ夏季攻勢ノ進展度ハ昨年ノ四分ノ三程度ナリ</p> <p>三、米英軍ハ「チユウニジャ」及西亞方面ニ集中シツツアリ</p> <p>四、獨伊ノ通商破壊戦戰果</p> <p>三ヶ月間 二〇〇萬噸</p> <p>一、米英ノ對土工作ハ着々奏功シツツアルガ如シ(在土武官觀察)土ハ中立ヲ維持スベキモ米英色日濃厚トナリツツアリ、米英武官教官増加ス</p> <p>一、ソ土間妥人往來頻繁ニシテ兩國ノ關係好シツツアリ</p> <p>二、獨ノ對「ヴィシー」政府壓迫ハ總骨トナリツツアリ</p>
<p>一、大本營政府ノ中堅組ニ對シテ調停提議起論アリ</p> <p>二、國內ノ滿取引依然横行シ諸統制尙不徹底ニシテ圓滑ナラズ民間ニ不滿ノ聲多シ</p> <p>三、智識階級中ニ戰局ノ前途ニ疑惑ヲ懷クモノアリ</p> <p>三、李樂面條昌シ都會人ニ緊張ヲ欠グモノ少カラズ</p> <p>三、一、麥ノ買収高ニ二〇〇萬石(昨年度ヨリ五〇萬石減)</p> <p>三、二、九月大暴風二回襲來</p> <p>米ノ予想收穫高六千萬石</p>	<p>三、一、米ハ對ソ物資援助ヲ昨年度ノ二倍ニ増加セル旨聲明セリ</p> <p>三、二、米英ノ對土武器供給益増加シツツアリ</p>

裏面白紙

めくれず

第二動（十月、十一月、十二月）情況（案）

大東亞關係	歐洲關係
<p>一、在支米空軍ハ我國ノ連續討伐ニ拘ハラズ漸増ノ傾向ニアリ</p> <p>二、天候回復シ緬印航空戰激烈トナリ空襲回敬昨年ノ二倍弱</p> <p>三、三ヶ月間ノ戰果總數破五〇〇機、我〇〇機失</p> <p>三、濠洲及印度洋海域ニ於ケル敵輸送船ノ行動活潑トナリ、我潜水艦ノ活躍目覺マシク三ヶ月間ノ戰果總數沈五〇万屯</p> <p>四、「キスカ」島</p> <p>五、三ヶ月ノ綜合戰果</p> <p>飛行機總數破一ニ〇〇機 我損害〇〇〇機</p> <p>商船總數沈六〇万屯 我損害〇〇万屯</p> <p>二、十一月中旬米英艦隊ノ在東洋軍首圖ノ印度會戰ヲ行フ</p> <p>三、十一月一日緬甸獨立宣言、樞軸諸國之ヲ承認ス</p> <p>三、國民生活益逼迫ノ度加リ民心不安ノ色アリ</p> <p>三、支那ノ食糧衣料不足及物價騰貴ハ深刻ナル様相ヲ呈シ餓死續出ス</p> <p>三、米ノ實收高五九〇〇万石（昨年ヨリ八〇〇万石減收）</p> <p>朝鮮二〇〇〇万石、臺灣ニ二期計八〇〇万石</p> <p>三、十二月迄ノ汽船成績ハ計畫通り實現ス</p> <p>三、四月ヨリ十二月迄ノ船舶喪失〇〇万屯</p>	<p>一、十月上旬米英軍「シシリー」「サルヂニヤ」ニ強襲上陸激戰中</p> <p>之ト同時檢「シシリー」沖海軍アリ、兩軍損害</p> <p>米英艦隊戰艦一隻巡邏三隻驅五隻沈没</p> <p>伊 艦隊戰艦三隻巡邏四隻驅八隻沈没</p> <p>二、獨ノ對ソ戰戰果 昨年度ノ約四分ノ三</p> <p>三、十二月ソ聯攻勢ニ輕シタルモ大ナル進展ナシ</p> <p>四、獨伊ノ通商破壞戰戰果</p> <p>五、三ヶ月間一八〇万屯（「シシリー」戰戰果ヲ含ム）</p> <p>一、西葡ハ中立維持ニ汲々タリ</p> <p>米英色漸次浸潤シツツアリ</p> <p>二、米英ノ伊ニ對スル同情優柔兩面ノ工作猛烈ナルモ敵ノ「シシリー」「サルヂニヤ」上陸ニ依リ伊ノ敵愾心ヲ反ツテ昂揚セリ</p> <p>二、米英ハ反樞軸側ノ戰局對有利ト獨ノ戰力低下ヲ大宣傳シツツアリ</p> <p>三、一、本年度獨伊ノ通商破壞戰戰果約八〇〇万屯</p> <p>三、二、米ノ生産計畫ノ約九〇％ト推定セラル</p>

裏面白紙

めくれず

大東亞關係

一、「ニューギニヤ」方面航空機及輸送破壊
戰時夜連續シ益激化シ敵百機ノ編隊ヲ以
テスル大空戰毎月數回アリ

二、二月上旬、印度軍重慶軍一齊ニ緬甸ニ反
攻シ激戰中ナリ敵ノ總兵力六〇万ヲ下ラ
ズ飛行機約二千機ト推定セラル、舟艇
「カルカッタ」方面ニ多敷アリ

三、二月下旬敵艦隊「アングマン」基地ニ來
襲上陸ヲ企圖セルモ我方頑強ニ抵抗之ヲ
蒙退セリ

四、三ヶ月間ノ綜合戰果及損害
飛行機擊墜一五〇〇機 我〇〇〇機失
商船 沈没三〇万屯 我〇〇万屯失

一、印度ノ反英行動通塞セリ

二、緬甸人ノ戰意漸々テ旺盛ナリ

三、佛印、泰ニ於テ戰局ニ關スル流言多ク親
米英派蠢動ノ徴アリ

三、十八年度製鐵費

三、新動員
銃鐵〇〇〇万屯、普通鋼々材〇〇〇万屯

三、陸海軍合計〇〇万人

三、陸海軍ハ「アルミ」増産ト其ノ全部使用ヲ要
求セリ

三、支那ニ對スル印度方面ヨリノ空中輸送活
潑ナリ

歐洲關係

一、「バルカン」ニ於ケル小衝突ニ端ヲ發シ
一月二十日土ハ反極軸側ニ參戰、米英ノ
援軍土ニ進駐シ英艦隊ノ一部ハ黑海ニ進
入セリ

二、「シシリー」「サルヂニヤ」ハ伊海軍ノ
敗退ニ依リ米英軍優勢ナリ

三、二月上旬、米伯軍「アソレス」諸島ニ進
駐セリ

四、獨ソ戰線膠着

五、獨伊ノ通商破壞戰戰果

三ヶ月合計一六〇万屯

一、獨ヨリ日獨伊會談提案
議題

對ソ問題、今後ノ作戰、技術物資交換等
一、補ハ米伯軍ノ「アソレス」進駐ニ對シ兩
國ニ形式的ノ抗議ヲ爲シ爾後何等表面化
セズ

二、米ノ言論ハ獨打倒第一主義強調ニ轉向セ
リ

三、獨ハ非鐵金屬及油脂類ノ要望切ナリ

裏面白紙

めくれず

第四動（四月、五月、六月）情況（案）

大東亞關係	歐洲關係
<p>一、緬甸戰線 英印軍ハ「アキアブ」ニ迫リタルモ漸次之ヲ北方ニ壓迫中重慶軍トハ〇〇江ヲ狭ミ對戰中ナリ 五月下旬以後天候不良トナリ戰況發展セズ 二、五月以降在支米空軍西日本及支那海空襲關西二回、北九州五回、臺灣二〇回、海南島及南支那海航路三〇回。毎回數機乃至五〇機編隊延一二〇〇機内墜墜約一五〇機墜破三〇〇機 我方損害船隻〇基、熔鑪爐〇基、電力〇万基、商船〇〇万屯、南支那海ノ航通五月半減 三、「ニューギニヤ」方面航空戰連續 四、三ヶ月間ノ綜合戰果及損害 飛行機墜破一四〇〇機 我〇〇〇機失 商 船 墜沈 二五万屯 我〇〇万屯失 一、五月一日米英ハ泰國人ヲ敵國人扱ニセズト聲明 二、空襲被害ニ關スル流言多シ（八輪、臺灣全域海上交通杜絶等）北九州臺灣ノ人心不安 三、政府部内ニ災害地ニ戒嚴令ヲ施行スベシトノ意見アリ 三、南方産業開發順調石油生産復舊 「ニューギニヤ」方面以外食糧自給略完成 三、商船ノ被害甚大ニシテ南方物資輸送力 六月迄ノ統計昨年度ノ〇〇% ノ</p>	<p>一、獨對土戰 熾烈獨軍「コンスタンチノール」攻略シ「ダーダネルス」海峡ヲ狭ミ對戰中 米英軍ハ多島海諸島ヲ占領シ「クレタ」島孤立化セリ、尙「ルーマニヤ」油田ニ對スル爆撃猛烈ナリ 二、五月「サルヂニヤ」全島米英軍ニ歸シ「シシリ」島ニ於テハ尙激戰中 三、六月末ノ敵ノ「バルカン」上陸ハ失敗セリ 四、獨伊ノ通商破壞戰戰果 三ヶ月間 二二〇万屯 一、亞國政府ハ樞軸國人ノ活動ヲ益制限シツツアリ 二、西葡ハ依然中立ヲ維持シテ「リベリア」 三、「バルカン」諸邦動搖大トナリ「ユウゴウ」等ニ於ケル反獨謀略頻繁ナリ 二、佛官民ノ盲動阻止ノ爲四月以後獨ハ佛全部ヲ軍制下ニ置ケリ 三、潜水艦ヲ以テ日獨物資交換順調ナリ 三、「ルーマニヤ」油田ニ對スル敵ノ猛爆ニ依リ獨ハ石油補充ニ困難ヲ來シツツアリ</p>

裏面白紙

めくれず

軍極秘

第五助(七月、八月、九月) 情況(案)

大東亞關係

歐洲關係

一、七月以降「ニューギニヤ」方面彼我陸軍本格的大規模展開シ之ニ伴フ航空戰熾烈ナリ

敵ノ長距離爆撃機ハ六〇乃至三〇機編隊ヲ以テ南「ボルネオ」油田地帯チ一〇回空襲セリ

二、八月上旬敵ノ一部ハ「タニンバル」諸島ニ上陸交戦中ナリ

三、九月下旬敵大艦隊北太平洋ニ現ハレ敵機約一〇〇機東京空襲、南島島大島島爆撃、艦艇三〇機、我方損害關東飛行機製産力〇〇%減(ニケ月) 焼鐵爐〇基破損(修復六ケ月) 官廳、住宅焼失〇〇戸罹災者〇〇万人

四五ケ月間ノ綜合戰果

飛行機機體破損二〇〇〇機以上我〇〇〇機失

商船沈没三〇万吨 我〇〇万吨失

一、東ソ兵力大減ナキモ、内線航空基地ノ増築顯著ニシテ時々米國型新鋭機現ハル日ソ國交ニ變化ナク米ソ國交ハ緊密化シアリ

二、指導層ニ戰局ノ前途ヲ悲觀スルモノアリ
三、南方占領地ニ對シ飛行機潜水艦ヲ以テスル謀略甚シク比島人ノ一部動搖シツツアリ

三、南「ボルネオ」油田ノ損率約 %復舊ニ〇ケ月ヲ要ス

一、獨ソ戰ハ獨宜優勢ナルモ大ナル進展ナク主トシテ航空消耗戰繼續シツツアリ
二、「シシリー」島ハ八月米英軍ニ降ス
三、獨土戰依然激烈
四、英北部ニ多數ノ船舶集中シアリ
五、獨伊ノ通商破壊戰戰果
三ケ月間二〇〇万吨

一、西、葡ニ對スル彼我ノ警戒嚴重ナリ
獨ハ西、葡進駐ノ意志ナキガ如シ
二、「フランコ」統領及羅馬法王ハ九月中旬相前後シテ和平演說ヲナセリ

二、獨ハ「バルカン」及佛ヲ漸ク制禦シアルガ如シ
三、伊國內ニ敗戰思想抬頭シツツアリト
三、米ノ生産力昨年度ト同程度ト稱スルモ捕虜等ノ言ニ徴スルニ若干低下ノ傾向ナリ

裏面白紙

めくれず

軍極秘

第六勁 (十月、十一月、十二月) 情況 (案)

大東亞關係

歐洲關係

一、十月上旬北太平洋大海戰

敵味方全力参加

擊沈戦艦五隻、空母一〇隻、巡艦八隻、

驅逐艦八〇〇隻以上

我損害、戦艦〇隻、空母〇隻、巡艦〇隻

驅〇〇隻沈没、飛行機〇〇〇機失

二、「ニユギニヤ」方面戦況我ニ有利ニシテ

敵ヲ南方ニ壓迫シツツアリ

三、十月ヨリ細田城再興シ相嘗激烈ナリ

英將陸路遅絡不成功

四、三ヶ月間ノ綜合戦果及損害

飛行機撃破三〇〇〇機以上、我〇〇〇

機失、戦艦撃沈二〇五隻、我〇〇万屯失

一、支那人漸次不遜トナル

二、佛印八校ニ對スル偵察機ヲ行ク陣向アリ

三、米英ハ日本ノ損害ヲ大々的ニ誇張且博シ

ツツアリ

三、米麥ノ實收尚昨年同程度

三、船舶避港増進シ〇〇〇万屯ニ達スル見込

三、船舶被害四月ヨリ十二月迄〇〇万屯

一、十月上旬米英軍諾威北部上陸ヲ企圖シタル

モ獨ノ海上空襲ニ依リ引返セリ

二、獨空軍ノ海上作戦能力著シク向上シ海面防

禦、通商破壊ニ偉功ヲ奏シツツアリ

三、獨ノ戦、獨土戦依然タルモ大勢ヲ變化スル

程度ニ達セズ

四、獨伊ノ通商破壊戦果

三ヶ月間一八〇万屯

二、十二月八日米英ハ樞軸國無條件降服迄戦ヲ

旨宣言セリ

三、米英ソ間要人往來頻繁ナリ

一、三ヶ月間一八〇万屯

裏面白紙

めくれず

第一回總機演 第四號
昭和十八年六月

昭和十八年度
第一回總力戰机上演習參考資料

配指 付者定	處 理
	演習終了後直ニ返却

泊
所
員

めくれず

一、本参考資料ハ大略ノ推定ニシテ机上演習ニ對スル一應ノ參考ニ供スルニ止ル

二、本資料時ニ各國ノ兵力量ニ關スル資料ノ取扱ハ時ニ慎重ナルヲ要シ、部外ヘノ發表及轉記ヲ禁ズ

机上演習參考資料目次

- 第一表 日本物動計費ノ概要（鐵、石炭、アルミ、船舶）
- 第二表 米國陸軍兵力量
- 第三表 米國海軍兵力量
- 第四表 米國陸海軍機現有數
- 第五表 英國陸軍兵力量
- 第六表 英國海軍兵力量
- 第七表 英國海軍艦艇增勢狀況一覽表
- 第八表 英國空軍兵力量
- 第九表 蘇聯陸空軍兵力量
- 第十表 蘇聯海軍兵力量
- 第十一表 獨國陸軍兵力量
- 第十二表 獨國海軍兵力量

第十三表	獨國空軍現有機數
第十四表	伊國陸軍兵力量
第十五表	伊國海軍兵力量
第十六表	伊國空軍兵力量
第十七表	非樞軸側佛國艦艇一覽表
第十八表	重慶政府陸軍兵力量
第十九表	重慶政府空軍兵力量
第二十表	附在支米空軍兵力量
第二十一表	土國陸空軍兵力量
第二十二表	米國船舶狀況表
第二十三表	米國船舶ノ喪失、新造、保有量ノ狀況
第二十四表	米國軍用機月産機數曲線
第二十五表	米國陸海軍第一線航空總兵力補充狀況
第二十六表	米國鑄塊生産高
第二十七表	各國石油生産概況
第二十八表	獨ノ對英米通商破壞戰々果

第一表 日本物産計費概要

一、生産計費（内、外地）		参考十七年實績見入
普通鋼鋼材	四一二万トン	四一五
アルミニウム	一五万トン	一〇
銅	九万トン	九万二千トン
石炭	六九七〇万トン	六八一五万トン
硫安	一五六万トン	一五一万トン
工作機械	六億圓	四億三千六百万圓

二、海上輸送力

二十八年六月現在見込の船隻（内、貨客船（外資））

現在操縦 四六六万トン
 控除船腹（徴用其ノ他）三三九万トン
 (一二四)

（Faint text, likely bleed-through or secondary data)

核動船腹 (九五)
一三七万トン
(二九)

三 造船計畫 (單位千トン)
鋼船 一、二〇八

内務 貨物船 七二七

鑛石船 一一八

油槽船 三一三

雜船 四九

木船 三六〇

三 物動輸送計畫 (除機帆船)

日滿支 三〇三〇万トン

南方 三〇〇万トン

第二表 米國陸軍兵力

一 陸軍總兵力 (昭和十七年十月現在)

三、八〇〇、〇〇〇 (航空兵力四〇〇、〇〇〇ヲ含ム)

最近八四、七〇万ニ増勢セリトノ情報アリ

三 米國海外派遣兵力 (昭和十八年二月推定)

方 面	陸 軍		海 兵 隊		飛 行 機		記 事
	太 西 洋 諸 島	領 地	太 西 洋 諸 島	領 地	太 西 洋 諸 島	領 地	
南洋	八〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	六〇〇	六〇〇		
新西蘭	一〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	一〇〇	一〇〇		
南太平洋諸島 (米領ヲ除ク)	一〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	五〇〇	五〇〇		ニューギニア、ソロモ ン、ニューカレドニア、ニ ー、フィジー、サンタ クルス
支那	三〇,〇〇〇	〇	〇	九〇	九〇		
印度	三〇,〇〇〇	〇	〇	二〇〇	二〇〇		
西亞	五〇,〇〇〇	〇	〇	一五〇	一五〇		
歐洲	四〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	二〇〇	二〇〇		
非洲	二〇,〇〇〇	〇	一五,〇〇〇	四〇〇	四〇〇		
中米	三〇,〇〇〇	〇	二〇,〇〇〇	一五〇	一五〇		
大西洋諸島	一〇,〇〇〇	〇	〇	一〇〇	一〇〇		
合計	七一五,〇〇〇	七二,〇〇〇	七二,〇〇〇	四六九〇	四六九〇		(兵員約一四〇,〇〇〇)

裏面白紙

第三表、米國海軍兵力

(昭 十八 一月十八日現在)

艦種	開戦時保有数	開戦後就役	開戦後喪失	現保有隻数
戦艦	一八	四	四〇	一三
空母	二七	〇	五	二二
特空母	二	一七	二	一
甲巡	一八	〇	一〇	一七
乙巡	九	八	五	一
輕巡	一〇	四	四	一
驅逐艦	一八五	八五	三一	二〇
潜水艦	一一八	三四	三七	九
艇母	三五	七	二	四〇

左側括弧内ハ損傷艦隻数

めくられず

第四表 米國陸海軍機現有數

(昭和十七年十一月現在推定)

第一線機	海軍		陸軍	
	機種	機數	機種	機數
	戦闘機	約 800	戦闘機	2,100
	観測機	・ 1,200	観測機	1,400
	爆撃機	・ 1,100	軽爆撃機	1,000
	飛行艇	・ 650	重爆撃機	1,800
	總計	約 3,800	總計	6,500

註 保有總機

海軍 8,000 機

陸軍 14,000 機

めくられず

第五表 英國陸軍兵力

一、英帝國陸軍總兵力 (昭和十八年四月末日現在)

英	軍	二、三〇〇、〇〇〇
加	奈	四、五〇〇、〇〇〇
洲	軍	五〇〇、〇〇〇
新	西	一、五〇〇、〇〇〇
南	阿	二〇〇、〇〇〇
印	度	七〇〇、〇〇〇
雜	軍	二〇〇、〇〇〇

(波一〇万佛四万、希二万其他)

計 四、五〇〇、〇〇〇

第六表 英國海軍兵力

(昭和十八年二月一日現在)

戰艦	空母	甲巡	乙巡	驅逐艦	潛水艇
一五	七	一五	一五	一九一	六〇
五	六	一	二	五〇	五六
一	一	一	一	五〇	一
二	一	五	二	二	三
三	四	一	九	八	三
一	一	一	一	一	二〇
一五	八	九	五	八一	六一
計					

戰艦 空母 甲巡 乙巡 驅逐艦 潛水艇
歐戰開戦時 歐戰後竣工 受 日 獨伊 不詳 護渡 合 計

めくれず

第七表 英國海軍艦艇增勢狀況一覽表 (昭18.5.推定)

艦種	1942年末	1943末	1944末
戰艦	15 - 480,350噸	15 - 488,350	16 - 528,350
空母	8 - 174,900 "	9 - 198,150	10 - 221,400
甲巡	9 - 89,255 "	8 - 79,355	8 - 70,355
乙巡	57 - 370,150 "	61 - 402,400	67 - 440,250
驅逐艦	277 - 352,964 "	298 - 379,544	321 - 407,932
潛水艦	61 - 66,321 "	70 - 77,481	79 - 88,641
計	427 - 1,533,940 "	461 - 1,625,480	501 - 1,735,928
年度中竣工	85 - 247,640 "	85 - 243,640	88 - 245,795
年度中喪失	84 - 231,840 "	51 - 152,100	48 - 105,350

めくれず

第八表 英國空軍現有兵力

(昭和十七年十月現在調)

部	隊	名	中隊數	機 數	
				英 空 軍	米 空 軍
第 一 線	本 部	戰 闘 部 隊	約180	1800	
		戰 艦 部 隊	125	1500	
		沿 岸 部 隊	70	800	
		計	380	4000	
機 外 部	海 外 所 在 隊 地	航 空 母 艦 搭 載 機		390	
		航 空 艦 載 機		180	
		計		570	
		地 中 海 (ジブラルタル マルタ)		250	
		近 東 (シリア ハレスチン サイプラス)		400	80
		中 東 (イラン イラク アデン)		200	40
		北 阿 (埃及 スーダン エリトリア)		1400	100
		東 阿 (ケニヤ)		120	
		西 阿 (ニジェリヤ ガムビア 黄金海岸)		100	
		印 度		550	200
計		3020	400		
自 治 領	南 阿 空 軍	洋 洲 空 軍		500	400
		新 西 蘭 空 軍 (フィジー ニューカレドニア)		240	150
		計		740	550
計			約 1,140	約 550	
總 計			9,500	13,500	

現有飛行機總數

練習機 輸送機 豫備機等ヲ合シ略第一線機ノ數ニ匹敵
ト推定シ 總機數 約 20,000機

め
く
れ
ず

(附) 在印空軍兵力現状及増強ノ狀況

一、現在兵力 (昭一八、一、初頭)

英空軍 第一線機 約六〇〇

(四二乃至四三個中隊程度ノ兵力ニシテ大東亞戰勃發直前ノ約三倍)

米空軍 第一線機 約二〇〇

合計 第一線機 約八〇〇

内爆撃機 約三〇〇

三、増強狀況

(1) 印度ニ對スル飛行機送派數 (月當リ)

英機 (含輸入機) 六〇ノ七〇機

米機 約 七〇機

合計 一三〇ノ一四〇機

(2) 實質上ノ増勢 (月當リ)

英空軍 二〇ノ三〇機

米空軍 約 三〇機

合計 五〇ノ六〇機

めくれず

第九表 蘇聯陸空軍兵力

○ 欧蘇方面

飛行機	四〇〇	師團
戦車	六一七	〇〇
	〇〇	〇
	〇	〇

○ 中蘇方面

補充部隊ノミニシテ其兵力一〇〇万

○ 東蘇方面

飛行機	二五	師團
戦車	一五〇〇	機
	一〇〇〇	〇
	〇	〇

めくれず

艦種	戦艦	空母	甲巡	乙巡	驅逐艦	水雷艇	潜水艦
バルチック艦隊	(内) 二 大破ノ如シ		(内) 二 大破?	(内) 四 大破?	九 一 二	一 一	五 〇
黒海艦隊	一	(水上機母艦) 一 ノ如シ	一 一 二	三	七	三	二 〇
北洋艦隊				二	五	三	一 六
在歐艦隊小計	三	一	三 一 四	九	二 一 一 二 四	一 七	八 六
太平洋艦隊	〇	〇	一	(假裝ヲ含ム) 二	一 〇 一 一	六	約 二 〇 〇 小中大 五四一 〇〇八
總計	三	一	四 一 五	一一	三 一 一 三 五	二 三	一 九 六

第十表 蘇聯邦海軍兵力

(昭和十八年二月現在)

總兵力

第十一表 帝國陸軍兵力量 (昭和十八年閏月現在)

四〇〇師團 一、〇〇〇萬

内 部

東方戰線 三〇〇師團 七五〇萬

其他 一〇〇師團 二五〇萬

飛行機 一万五千機 (半數 東方戰線)

戰車 一万五千輛 (主力)

めくれず

第十二表 獨國海軍兵力

艦種	開戦前保有数	開戦後建造数	喪失数	現保有数	記事
戦艦 (内三艘戦艦)	二		一	五	
航空母艦	〇	一	〇	一 (未就役)	
装甲艦	五	二	二	五	
乙巡	六	二	二	六	
驅逐艦	二二	八	一二	一八	(一九四二、五、一) 二八隻増トノ報アリ
潜水艦	六六	?	?	約四〇〇	

註 潜水艦ハ今次歐洲大戦ニ依リ喪失セルモノ約九〇隻ト認メラル
ルモ詳細不明

一九四二年四月現在ノ保有潜水艦ハ約四百隻トノ報アルモ確實ナラズ

第十三表 帝國空軍現有機數

第一線機		第二線機		第三線機		計	
陸	急降	偵察	複座	偵察	水上	輸送	計
約六〇〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、九〇〇〇

現有機數
一九四二年四月推定
第一線機 一五〇〇〇機
豫備機 四〇〇〇機

対英正而 三、〇〇〇機
対蘇正而 一、三、五〇〇機
地中海方面 五、〇〇〇機
ルカン沿岸方面 一、五、五〇〇機
國內防備 三、〇〇〇機
一、〇〇〇機

めくれず

第十四表 伊國陸軍兵力量 (昭和十八年四月現在)

總兵力

八〇師團 二〇〇萬

主力 伊太利本土

一部 フランス及バルカン方面

飛行機 二五〇〇機

戰車 三〇〇〇輛

第十五表

伊藤海軍兵力

(昭和十七年三月現在)

水	潜	水	驅	輕	威	戰
上	水	雷	逐	巡	巡	艦
投	艦	艇	艇	巡	巡	艦
母	約	七	七	二	七	七
艦	一〇〇	五	七	隻	隻	隻
一隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻
				他	他	他
				二	一	隻
				隻	隻	隻
				建	建	建
				造	造	造
				中	中	中

めくれず

第十六表 伊國空軍兵力最 (昭和十八年一月末現在)

戰	約	九	四	〇	機
爆	約	三	二	〇	機
雷	一	二	〇	機	
急降下爆	二	〇	機		
偵察	二	一	〇	機	
陸軍專屬航空部隊	二	七	〇	機	
海軍偵察機	一	八	〇	機	
輸送機	四	五	〇	機	
合計	約	二	五	〇	機

めくれず

第十号 英海軍艦船損傷調査一覽表 (昭和十八年三月十日現在)

艦種	北阿政權(ジロー派)及之ニ近キモノ	「D、ゴール」派(英海軍使用ノモノヲ含ム)	合計	記事
航空母艦	一	〇	一	
甲 巡	三	〇	三	
乙 巡	六	〇	六	
輕巡洋艦	三(内一ハ損傷ヲウケ)	二	五(内一ハ損傷)	大破(戦力ナキモノハ計上セズ)
驅逐艦	六(内三八損傷ヲウケ)	八	一四(内三八損傷)	
潜水艦	二四(内五行衛不明)	六	三〇(内五行衛不明)	

めくれず

第十八表 重慶政府陸軍兵力量 (昭和十八年五月現在)

總兵力		約 三〇〇師團
内 譚		
中央直系軍		六〇師團
中央傍系軍		五〇師團
地方軍	一四〇師團	
外		
北支方面		六〇師團
四川省方面		三〇師團
雲南方面		三〇師團
甘肅方面		二〇師團
不明		五〇師團
外ニ北支共產軍		三〇萬
合計		三百萬

めくれず

第十九表 重慶政府空軍兵力量 (昭和十八年五月現在)

一	重慶空軍	五十一五四
二	聯絡機	一九六 (内結一線機一三三)
三	輸送機	八一
四	練習機	三五
五	聯絡機	三九
六	三米空軍	四二
七	爆擊機	六〇

めくれず

第二十表

土國兵力量

(昭和十七年十一月末現在)

(I) 陸軍兵力 七〇一八〇萬 (約七割動員程度)

飛行機 約六〇〇

戰車 約四〇〇

歩師四六山師一騎師四裝甲師一要塞守備兵若干

(II) 兵力配備ハ最近對樞軸防禦配備ヲ合理化セリ

今次ノ兵力配備ノ變更ハ英ト共同研究ノ上實施セリト認メラル節アリ

(III) 軍需品ハ少最宛連續米英ヨリ供給セラレアリ

(IV) 米英ノ情報謀略經濟各機關ハ土耳其方面ニ於テ極メテ活潑ナル活動

ヲ續ケ英米ガ近ク積極的ニ近東ニ進出スルノ企圖ヲ示シアリ

兩昨春秋以來英ハ土國內主要空軍基地ニ空軍士官ヲ派遣シ訓練整備ノ

指導等ニ當ラシメアリ

最近派遣士官ノ數相當増加セリト見ラレル節アリ

めくれず

め
く
れ
ず

月 別	完成新造船 (B)		月末保有量 (A+B)-(C+D)	
	隻数	噸	隻数	噸
昭和十六年末 保有量(A)			1808	10,161,400
昭和十七年一月	13	12045	1597	10,086,858
二月	26	188,10	1572	9,925,964
三月	26	18945	1519	9,568,820
四月	36	26106	1468	9,297,080
五月	58	41099	1438	9,160,877
六月	53	36320	1405	9,011,277
七月	57	39320	1369	8,837,177
八月	56	32680	1371	8,833,177
九月	74	518,00	1370	8,829,577
十月	65	454,00	1371	8,837,177
十一月	67	472,00	1393	8,980,777
十二月	72	50240	1425	9,284,577
昭和十八年一月	83	58580	1476	9,657,927
合 計	689	4845.27		

(註)

- 噸數ハ總噸ニテ示ス
- 昭和16年末保有量
- 昭和16年末ニ於テ
- 昭和16年夏ニ於テ

45

第二十一表 昭和十七年一月以降各月別米船舶ノ状況

月別	完成新造船 (B)		完成新造船中 英國へノ引渡船 (C)			喪失 (D)			増+又ハ減(-) B-(C+D)			月末保有量 (A+B)-(C+D)	
	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数	噸数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数	
昭和十六年末 保有量 (A)											1,808	10,161,400	
昭和十七年一月	19	120,458	-	-	27	185,000	10,000	195,000	-11	-74,542	1,597	10,086,858	
二月	26	188,106	-	-	51	339,000	10,000	349,000	-25	-160,894	1,572	9,925,964	
三月	26	189,456	4	27,200	75	509,900	10,000	519,900	-53	-357,444	1,519	9,568,520	
四月	36	261,060	3	20,400	84	571,900	10,000	581,900	-51	-341,240	1,468	9,227,280	
五月	58	410,997	9	61,200	79	406,000	10,000	416,000	-30	-66,203	1,438	9,160,877	
六月	53	363,200	6	40,800	80	462,000	10,000	472,000	-33	-149,800	1,405	9,011,277	
七月	57	393,200	8	54,400	85	502,900	10,000	512,900	-36	-174,100	1,369	8,837,177	
八月	56	326,800	2	13,800	52	367,000	10,000	377,000	+2	-4,000	1,371	8,833,177	
九月	74	518,000	7	47,800	68	471,000	10,000	481,000	-1	-10,800	1,370	8,822,577	
十月	65	454,000	3	20,400	61	409,000	10,000	419,000	+1	+14,800	1,371	8,837,177	
十一月	67	472,000	3	20,400	42	398,000	10,000	408,000	+22	+143,800	1,393	8,980,777	
十二月	72	502,400	2	13,800	38	175,000	10,000	185,000	+32	+302,800	1,425	9,284,577	
昭和十八年一月	83	585,800	-	-	22	202,450	10,000	212,450	+51	+373,350	1,476	9,657,927	
合計	689	4,845,277	47	319,600	774	4,899,150	130,000	5,029,150	-122	-503,475			

(註)

- 噸数ハ總噸ニテ示ス
- 昭和16年末保有量ニハ總噸数2,000噸以上ノ米船及米支配下ニ在ル外國置籍船ノ合計噸数ヨリ太潮船ヲ除ク
- 昭和16年末ニ於ケル(2,000總噸以上)ハ411隻2,268,000總噸(海軍委員會發表)
- 昭和16年夏ニ於ケル米支配下外國置籍船ハ285隻1,250,000總噸(海軍委員會發表)

45

め
く
れ
ず

裏
面
白
紙

めくれず

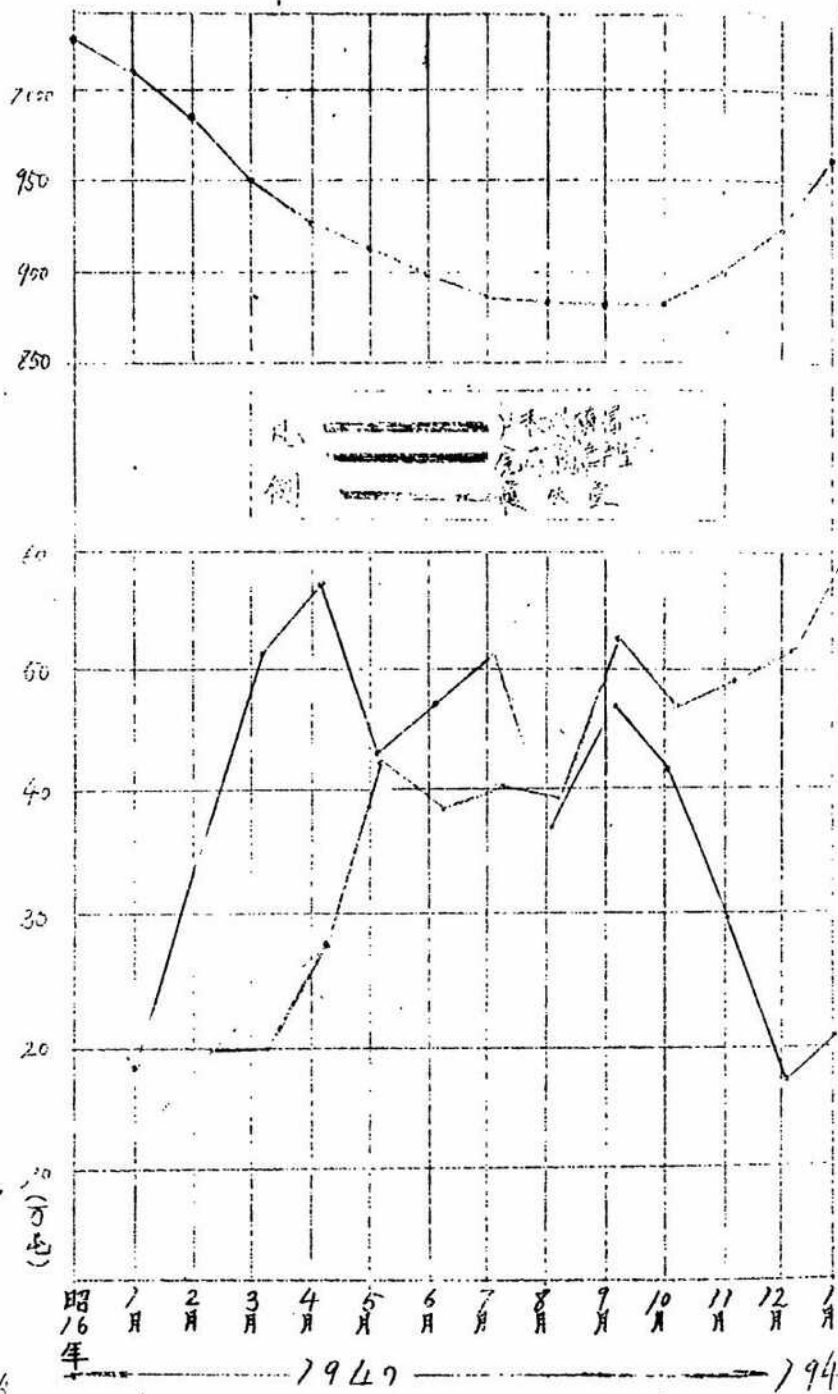
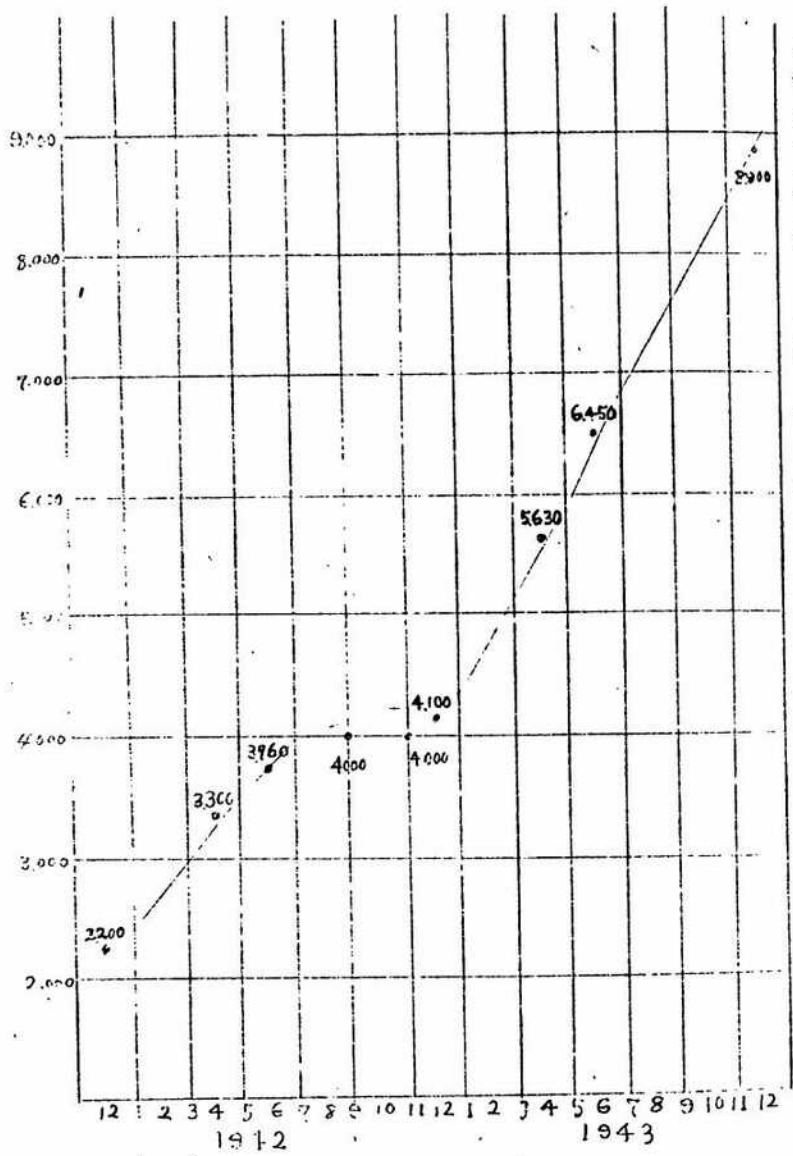
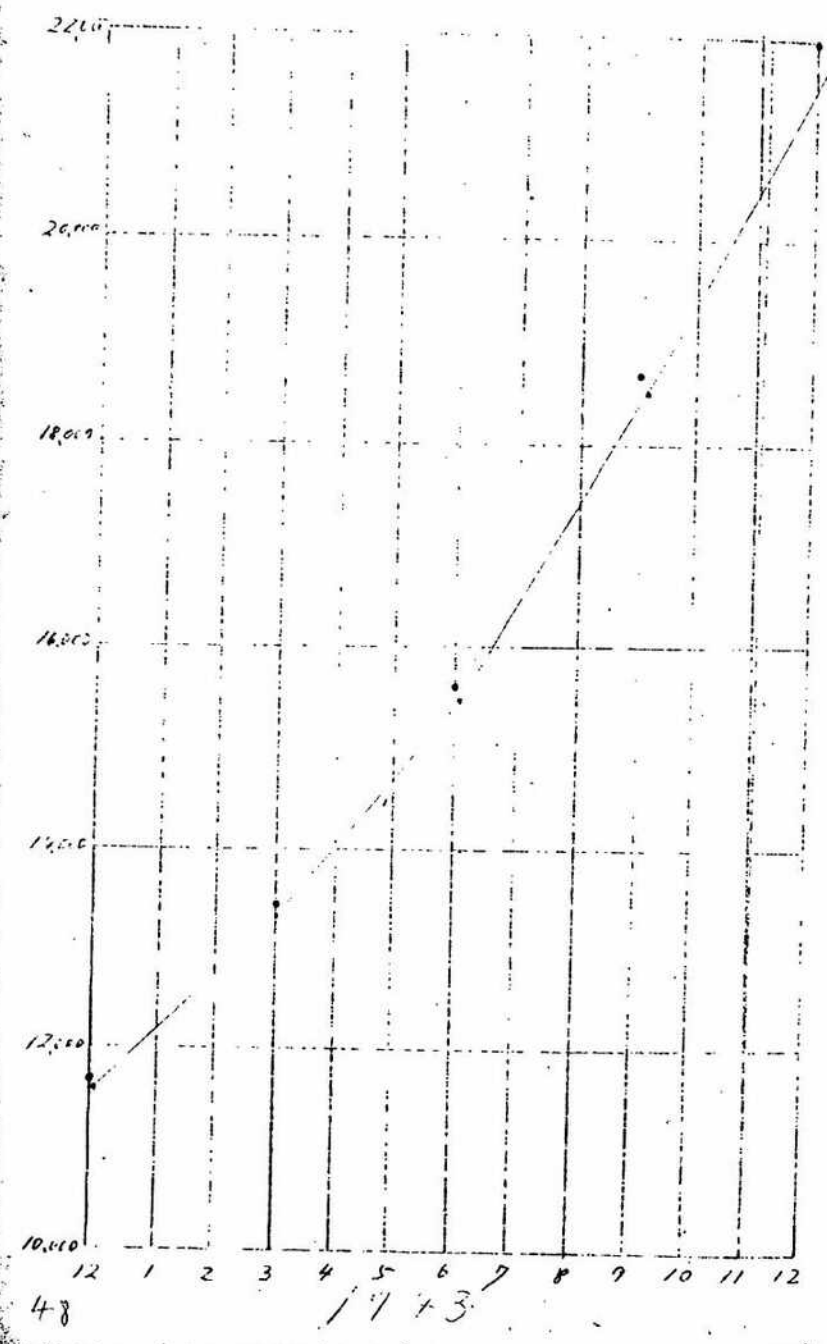


Table with multiple columns and rows, containing numerical data and some text. The text is mostly illegible due to the quality of the scan.

め
く
れ
ず



めくれず



第一師団陸軍第一師団航空隊兵力擴充状況

48

1773

第二十五表 米國鋼塊生產高 (單位千噸)

年	平爐	轉爐	坩堝爐	電爐	合計
一九三六年	四八、五五一	三、八七三	〇・九	七九八	五三、二一四
一九三七年	五一、五七九	三、八六四	一・〇	九一二	五六、三五六
一九三八年	二八、九六五	二、一〇六		五二五	三一、五九六
一九三九年	四八、二二六	三、三五九	〇・九	九五二	五二、五三七
一九四〇年	六一、三三二	三、七〇九	一・〇	一、六〇八	六六、六五〇
一九四一年	七四、三八〇	五、五八〇		二、八四〇	八二、八四〇
一九四二年 (上半年)	三七、八八九	二、七九九		一、八八二	四二、五七〇
一九四二年 (推定)					八九、一三三

49

一、米國原油生産及輸出入高

年	原油生産高	輸入高	輸出高
一九三七年	一、〇〇七、三二三	七八、九三三	二六、三九四
一九三八年	一、二一四、三五五	七七、二五四	二六、〇四八
一九三九年	一、二六四、二五六	七三、〇六四	三四、一〇六
一九四〇年	一、三五三、〇〇〇	五一、四九五	四一、五五七
一九四一年 (推定)	一、四〇六、〇〇〇		

(一、〇〇〇バレル)

二、蘇聯原油生産高 (一、〇〇〇バレル)

一九三七年	二一三、五〇〇
一九三九年	二二五、四〇〇
一九四〇年	二一三、五〇〇
一九四一年	二二九、四〇〇

三、一九四一年度蘇聯産油推定額 (一、〇〇〇バレル)

コーカサス地域	二〇七、九〇〇
バシキール	一四四、九〇〇
ダグロボズマイ	四五、五〇〇
マヤコップ	一四、四〇〇
エムバ	一、九〇〇
第二バクター	一、九〇〇
樺太其他	四九、〇〇〇
合計	五五九、〇〇〇

三、獨支配下ノ石油供給源ノ推定 (一、〇〇〇バレル)

ルーマニヤ	三六、〇〇〇
フランス、アルバニヤ	八、四〇〇
ハンガリー、エストニア	四、二〇〇
ドイツ(人造石油を含む)	三、五〇〇
計	一〇三、六〇〇

めくれず

以升噸數ハ抽定ナリ

三月十一月ノ艦艇ヲモ含ミタル艦船墜沈ノ總隻數並ニ總噸數ナリ

* 四 各月公表ノ分ヲ合計セルモノナルガ別ニ一九四二年ノ綜合戰果ト

シテ左ノ如キ數字モ發表サレタ數字符合セザルモ大差ナキモノト
認ム

一九四二年ノ總戰果

八、九四〇、〇〇〇噸（一、四五〇隻）

海軍 …………… 七九五五〇〇噸（一、二八三隻）

内（内潜水艦）…………… 七五八六五〇噸（一、二〇八隻）

空軍 …………… 九八五〇〇噸（一、一六七隻）

めくれず

第二十七表 獨ノ對英米通商破壊戦々果

年 月	撃沈隻數	噸 數	累計噸數(開戦以來)
一九四二年一月	七四隻	三七〇、四一九噸	一三三、五四六四五噸
二月	七九隻	五二五、四〇〇噸	一三八、八〇〇四五噸
三月	一〇五隻	六四六、九〇〇噸	一四五、二六九四五噸
四月	門九五隻	五八五、〇〇〇噸	一五一、一、九四五噸
五月	一七〇隻	九二四、〇〇〇噸	一六〇、三五九四五噸
六月	一五六隻	八八六、〇〇〇噸	一六九、二、九四五噸
七月	一二八隻	八一五、九〇〇噸	一七七、三七八四五噸
八月	一二五隻	八〇八、一〇〇噸	一八五、四、九四五噸
九月	一六一隻	一〇一、七〇〇噸	一九五、五、七四五噸
十月	一三三隻	七三五、五七〇噸	二〇、二九三、二一五噸

(一九四三年)

十一月	門一五五隻 門六八隻	七五五、二〇〇噸 (一〇、五五二〇〇噸)	二一〇、四八、四一五噸
十二月	七八隻	四四七、〇〇〇噸	二一、四九五、四一五噸
計	一四三九隻	八五一、一八九噸	

(一九四三年)

一月	八一隻	五二二、〇〇〇噸	二二〇、一七、四一五噸
二月	九〇隻	五七六、八〇〇噸	二二、五九四、二一五噸
三月	一四九隻	九二六、六〇〇噸	二三、五二〇、八一五噸
四月	六三隻	四二三、〇〇〇噸	二三、九四三、八一五噸

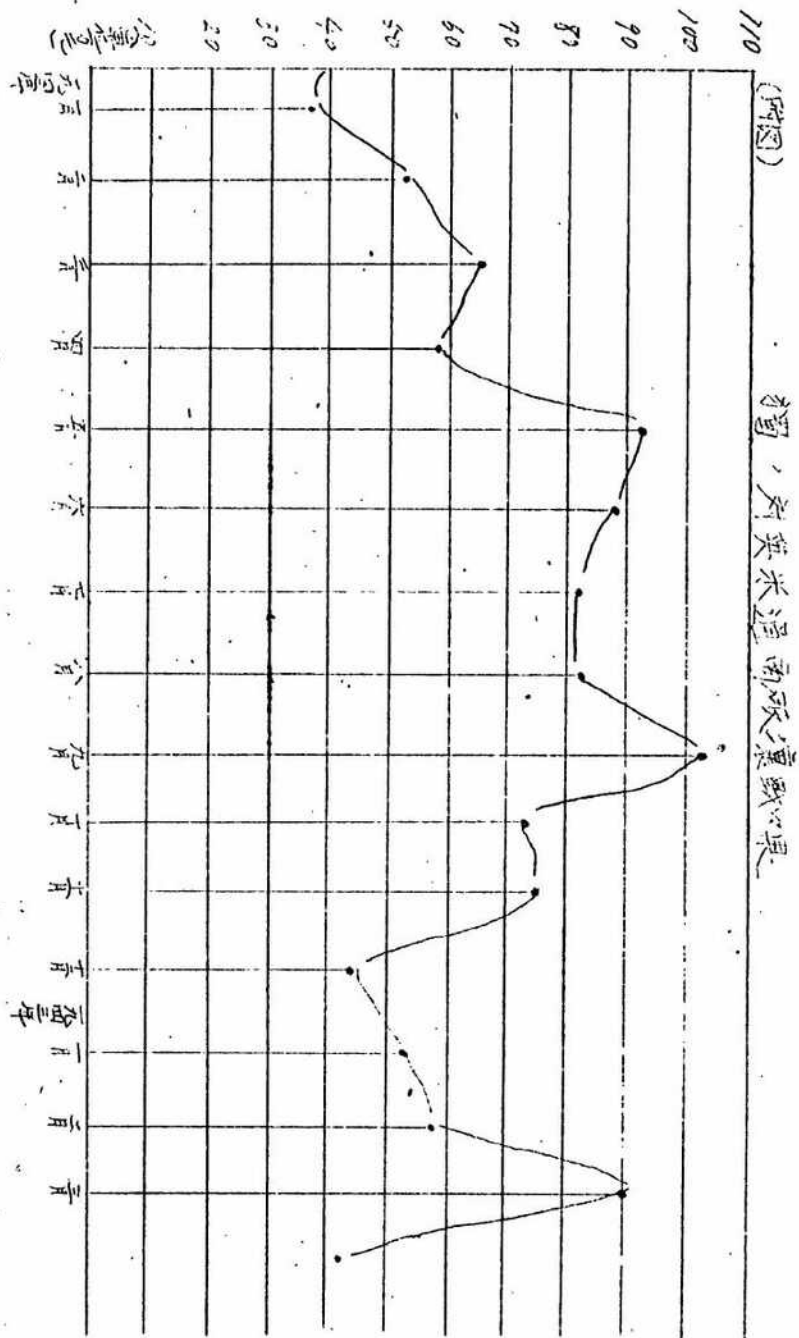
(註)

* (一) 一九四二年四月ハ撃沈噸數ノミ公表サル噸沈隻數ハ推定ナリ
 * (二) 一九四二年十一月ハ艦艇撃沈ヲモ含ミテ公表セルタノ艦艇(巡三驅
 六其他二)チ三〇万噸ト推定シ算出セル隻數及噸數ヲ掲ゲタリ從
 ツテ噸數ハ推定ナリ

三月十一月ソ艦艇ヲモ含ミタル艦船撃沈ノ總隻數並ニ總噸數ナリ
 * 四 各月公表ノ分チ合計セルモノナルガ別ニ一九四二年ノ綜合戦果ト
 シテ左ノ如キ數字モ發表サレタ數字符合セザルモ大差ナキモノト
 認ム

一九四二年ノ總戦果

八、九四〇、〇〇〇噸 (一、四五〇隻)
海軍
内 (内潜水艦)
空軍



第一回總力戦机上演習ニ關シ統監補佐官注意

項 目

- 一、 演習内閣ニ就テ
- 二、 想定ニ就テ
- 三、 處置ニ就テ
- 四、 討論ニ就テ
- 五、 秘密保持ニ就テ

めくれず

第一回總力戰机上演習ニ關シ統監補佐官注意

一、演習内閣ニ就テ

(一) 演習内閣ノ施策ハ演習開始迄東條内閣ノモノヲ踏襲シ爾後各内閣ノ所信ニ依ル

(二) 演習内閣ノ閣員ハ當番陳述者ヲ總理格トスル外特ニ指定セズ、作業ハ全員ノ協同作業トス

二、想定ニ就テ

(一) 第一助ノ情況ハ六月ノ實際ノ情況ニ基礎ヲ置クモ爾後ノ情況ハ想像ニ過ギズ、然レドモ與ヘラレタル情況ハ想定上ノ事實トシテ之ニ根據ヲ置キ、情況下ノ人トナリ、立論處置スルヲ要ス

(二) 與フル情況ハ、實際ノ情況ニ比較スレバ極メテ簡單ナル爲處置ニ困難スルコトアルベキモ、複雑ナル諸情報ヲ綜合簡略化シタルモノト考ヘ得ル乏シキ資料ニ依ル情勢判断モ演習ノ一方法ナリ

三、演習上、做米英ノ採ルベキ方策ハ想定トシテ指導部ニ在リ

三、處置ニ就テ

(一) 處置ハ全閣員ノ協同作業ニ依ルモ必ズシモ全員一致ヲ必要トセス當

番陳述者ニ於テ其ノ旨開陳スルコトトス

(二) 閣員ニ問題ノ尋問家ナキ場合ハ、他室閣員中ノ尋問家ニ判断資料ヲ

聴取スルコトヲ得

(三) 處置書ニハ處置要項ヲ列記スル程度ニ止メ之ガ理由ハ口頭説明ニ依

ルモノトス

四、討論ニ就テ

(一) 討論ガ本演習ノ主体ヲナスコトハ統監訓示ノ通ナル所、一問題ニ充

當スベキ討論時間ハ三十分乃至一時間程度ニ限定スルヲ要スルヲ以

テ陳述者ハ簡明ニ所信ヲ開陳スルヲ要ス

一人五分ヲ標準トス

(二) 討論ニ於テハ入所後日尙淺キ諸君ニ万善ヲ望マズ、素人的斬新奇拔

第一助

第一助 (十八年七月、八月、九月) 情況

指 定	配 付 者
處 理	演習終了後直ニ返却

大東亞關係

一、ハルビン 中東鐵路林方前、香港、海南 石、昨年 度三、〇 萬石減)

二、九月大暴風二回襲來
米ノ豫想收量高六千萬石

歐洲關係

一、地中海方面ノ航空戰激烈ナリ、米英空軍
ニ對ソ物資援助ヲ昨年度ノ二倍ニ増加
セル旨聲明セリ

二、米英ノ對土武器供給益増加シツツアリ

めくれず

第一助 (十八年七月、八月、九月) 情況

大東亞關係

一 七月中昆明桂林方面ヨリ廣東、香港、海南
島ニ敵空襲ニ回、商船ニ沈没、内一隻ハ六
千屯級鑽石運搬船

二 八月三十日「キスカ」島ニ敵軍上陸敵艦ノ
後九月上旬之ヲ撃滅セルモ我方損害モ亦大
ナリ敵船船隻沈没十二隻

三 九月三日第二次「アリウシヤン」海戦
敵空母一巡「羅四」沈没、我巡「羅三」沈没

四 三ヶ月間ノ航空戦及潜水艦戦
我艦隊 丁○○○艘 我損害 四○○艘
商船沈没 二五萬屯 我喪失 二〇萬屯

一 一ソ聯ノ對日關係ニ變化ヲ經ゾ

一 大本營、政府ノ中概相ニ獨ソ調停提議論ア
リ

二 國內ノ關取引依然漸行シ情統制尙不徹底ニ
シテ圓滑ナラズ民間ニ不満ノ聲多シ

三 智識階級中ニ敵扇ノ前途ニ疑惑ヲ懷クモノ
アリ

四 享樂而饒昌シ都命人ニ緊湊ヲ缺クモノ少カ
ラズ

五 麥ノ實收高ニ〇〇〇萬石 (昨年度ヨリ二五
〇萬石減)

六 九月大暴風ニ回襲來
米ノ豫相收収高六千萬石

歐洲關係

一 地中海方面ノ航空戦激烈ナリ、米英空軍
ノ主目標伊ノ工場地帯及軍艦、獨伊空軍
ノ主目標ハ交通船

二 獨ノ對ソ夏季攻勢ハ六月下旬ヨリ「スタ
ーリングラード」方面ニ向ケ開始シタル
モ其ノ進展度ハ昨年ノ四分ノ三程度ナリ
九月下旬「ロストフ」洲ノ大部占領

三 「シシリー」海峽ハ米英軍ノ制壓スル所
トナリ敵ハ大部隊ヲ「チユウニジャ」及
西亞方面ニ集中シツツアルガ如シ

四 獨伊ノ通商破壊戦結果
三ヶ月間 一〇〇萬屯

一 米英ノ對土工作ハ著々奏功シツツアルガ
如シ土ハ當分中立ヲ維持スベキモ米英色
日日濃厚トナリツツアリ、(在土武官關
察) 米英武官數官増加ス

二 一ソ土間要人往來頻繁ニシテ兩國ノ關係好
轉シツツアリ

三 獨ノ對「ヴァイシー」政府壓迫ハ露骨トナ
リツツアリ

四 米ハ對ソ物資援助ヲ昨年度ノ二倍ニ増加
セル旨聲明セリ

五 米英ノ對土武器供給益増加シツツアリ

指定
配付者
處理 演習終了後直ニ返却

裏面白紙

めくれず

第一内閣ノ第一勅ニ對スル所置

ニ米英ノ對歐企圖ノ判断

「バルカン」半島ニ第二戰線ヲ實行スルト共ニ「サルヂニヤ」「シシ
リー」「ロードス」島ノ占據ヲ企圖シアリ、

國內緊急政策

一 戦局ノ變相ヲ卒直ニ國民ニ訴へ輿論指導ノ浸透強化ヲ圖ルコト

二 重要企業ノ國家管理ヲ強化スルコト

三 企業設備ノ早急實行ヲ所行スルコト

四 労働管理ノ國家的處理ヲ強化スルコト

五 低物價修正ノ再検討ヲ行ヒ企業意欲ノ旺盛化ヲ圖ルコト

六 附取引ノ取締ヲ強化スルコト

七 娛樂其他文化齟面ノ刷新健全化ヲ圖ルコト

指
定
配
付
者

處
理
演習終了後返却

めくれず

八學校教育ノ戰時對應策進歩化ヲ圖ルコト
食糧問題

壹千余万石ノ米麥不足ハ主トシテ万噸ヲ増シ外米ヲ輸入ス。

一〇〇万石……酒造米ノ減少並代用食糧給

九〇〇万石……外米輸入

食糧ノ國民ニ對スル供給ハ適現狀ヲ確保セントス

對蘇調停問題

一、獨蘇ノ關係停ハ之ヲ行フベキモノトス

二、調停ノ時期及方法ヲ研究シ、適時ニ效果のナル調停ヲ進行シ得ル如

ク施策シ置クコト

(1) 對蘇交渉

(2) 對獨交涉

(3) 對英方ノ措置

第二内閣ノ第一動ニ對スル處置

指定
配付者
處理
演習終了後返却

方針

大東亞共榮圈ノ實力ヲ充實シ絕對不敗ノ体制ヲ確立ス

要領

一、戦力増強對策ヲ中心トシ資源確保上必要ナル戦闘ハ展開ス

二、外交上優位的地位ヲ確保ス

三、民心ノ安定戰爭意識昂揚ノ爲メ國體精神ノ顯揚並ニ生活ノ安定ヲ期ス

米國ノ對歐企圖

判断

1 歐洲ノ制覇ヲ圖リ戰後ノ指導的地位ヲ確保セントス

めくれず

- 2 伊ノ戰意ヲ喪失シ獨伊陸間ヲ固シ
- 3 土耳其ノ中立ヲ破リ反艦軸陣營ニ引入ル
- 4 如二戰線結成ノ意圖アリトモ個ハルルモ吹大陸上陸作戦ハ直チニ行ハルルトハ考ヘ得ズ

三 國內緊急對策

- (1) 戰意昂揚ノ詔書頒發ヲ仰グ
- (2) 敵國ノ戰時意氣昂揚狀態ヲ察知セシメ國民ノ奮起ヲ促ス
- (3) 不健全守備機關ノ即時廢止
- (4) 統制機關ノ嚴密主義ノ徹底

食糧對策

- 1 産業技術ノ改良ト産地調整ニ依ル増産
- 2 甘藷馬鈴薯ノ増産
- 3 蛋白質源ノ確保ト内水面ノ利用ト淡水漁介ノ利用
- 4 貯蓄食糧ノ確保

四 獨蘇調停問題

望シキ問題ナレドモ現在其ノ時機ニアラズ
 土耳其問題ヲ中心ニ米蘇離間策ヲ講ズベシ
 五 都市分散問題
 防空、食糧、治安、風紀諸般ノ點ヨリシテ速ニ都市分散對策ヲ樹立シ
 之ガ實現ヲ期スベシ

めくれず

第三内閣ノ第一動ニ對スル處置

米英ノ對歐洲施策判斷

阿弗利加及西亞ニ於ケル戰略的資源的地位ヲ確保擴充シ、地中海ノ制海、制空權ヲ一層確立シ且ツ伊國、土耳其其他ニ對スル神經戰ヲ強化シツツ對獨包圍ヲ逐次壓縮シテ其背後擾亂ヲ策シ爾後ノ大陸進攻ヲ準備スルナラン。

之ガ爲差當リ(1)本年中ニハ歐洲大陸ニ上陸作戰ハ實施セザルベシ。
 (2)「シシリー」島其他地中海島嶼ノ若干ヲ占領スルノ公算アリ。(3)土耳其古ノ抱込工作ヲ強化スベシ。(4)對ソ援助ヲ強化スベシ。
 國內對策トシテ緊急ナルモノ左ノ如シ

一、勞務關係

(1)精神指導ノ徹底(2)能率向上(3)機械化ヘノ促進(4)不要不急ノ專門學

處 理	配 付 者 定
	演習終了後返却

めくれず

校以上ノ諸學校閉鎖

三 物資關係

(1) 物資配給ノ適正化 (2) 食糧ノ増産確保
三 商工關係

(1) 企業整備ノ徹底化 (2) 僑余人員ノ歸農化
四 官吏ノ糾起肅正
五 交通關係

食糧對策

(1) 貨物輸送力ノ徹底的強化
船腹ノ窮乏ニ鑑ミ食糧増産ヲ徹底ス
之ガ對策トシ

六 企業整備 學校閉鎖 女子ノ徵用ニ依リ人力ヲ増加ス

三 朝鮮臺灣ヨリ米麥齒洲ヨリ大豆ノ輸入ヲ極力促進ス

三 大都市ノ食糧自給ヲ計ル爲公田、庭園其體休耕地ノ整理ヲ徹底ス

獨ソ停問題

一 帝國トシテハ獨ソ和平ノ成立ヲ希望ス

二 和平成立ノ可能性アルトモハ帝國之ガ仲介ヲ行フヲ要ス

但シ帝國トシテハ武力懸停ヲ行ハザルベカラザルノ窮地ニ陥ラザル

如ク万全ノ注意ヲ要ス

三 本件ニ關シ獨側ノ眞意ヲ更ニ充分確カムルヲ要シ、又特ニソ側ニ對
スル打診開始ハ慎重ヲ要ス

第四内閣ノ第一勅ニ對スル處置

第一問題 米英ノ歐洲正而ニ對スル企圖判斷

敵ハ重點ヲ獨伊戰ニ指向シ伊ノ樞軸脱落、土ノ抱込ヲ策シ、以テ第二戰線結成ニ依リ獨ノ屈伏ヲ企圖スベシ

國內緊急對策

戰局ノ真相ヲ必要ナル限度ニ於テ發表シ國民ノ時局認識ヲ深メ國民志氣ノ昂揚運動ヲ展開ス
風俗營業ヲ停止シ國民娛樂志向ヲ健全ナル方向ニ指導ス
食糧對策

一 主食ニ對スル全面的切符制度ノ施行

二 酒造米ノ半減

三 持越米ノ緊急配給

指 定 者	
配 付 者	
處 置	演習終了後返却

めくれず

獨ソ調停問題

外交的手段ヲ以テ獨ソ調停ヲ策ス

第五内閣ノ第一勅ニ對スル處置

一、米英ノ對歐作戦ニ對スル狀況判斷

米英ノ歐洲大陸上陸作戦ノ時機接迫シツツアルモノノ如シ

二、外交關係

獨ソ調停ハ未ダ其ノ時期ニアラザルモ常ニ兩國政府ト此ノ點ニ關シ緊密ナル接觸ヲ保ツモノトス

三、國內對策

悪質ノ調取引ニ對シテハ嚴罰ヲ以テ臨ムト共ニ享樂而ハ企業整備ノ徹底ニヨリ逐次壓縮ス

四、經濟問題

(1) 端境期ニ於ケル對策

1. 外米ノ彌着ヲ促進ス

2. 繰越米ハ可成計登收量ヲ維持ス

指 定	指 定
記 付 者	記 付 者
演習終了後返却	

四 來年米穀年度ニ對スル對策

1. 外米船腹ハ極力現狀維持ニ止ム
2. 農家ノ供出ヲ強化ス
3. 薯類雜穀類ノ生産ヲ増加ス
4. 飼料ヲ極力食糧ニ轉換ス
5. 業務用米及酒造用米ノ節減ヲ圖ル

第六内閣ノ第一動ニ對スル處置

一 米ノ對歐洲企圖

(1) 歐洲ニ於ケル獨ノ征覇權ヲ破摧シ、英ニ代リテ歐洲ノ經濟的支配權ヲ確立スルニアリ

(2) 空襲ヲ伊ニ集中シテ獨伊ノ離間ヲ圖リ、土、西、葡等ノ中立國ヲ自

己ノ陣營ニ誘引セントス
 註 日本ハ「パナマ運河」ヲ急襲スベシ
 但シ實行不能論アリ

三 國內緊急對策

現内閣ノ諸方策ヲ階級強化シ、格別新規緊急對策ヲ要セザルモノトス
 三 食糧對策

(1) 本米穀年度ノ對策トシテハ麥ノ收穫減ハ早場米ニ依ツテ喰糶グモノ

指 定 者	配 付 處
	理 由 了 後 返 却

ト
ス

(2) 米穀年度ノ對策ハ外地米ヲ平年作トスレバ外國米輸入ノ多少ノ節
量ヲ制ルト共ニ國內ニ於ケル酒米業務用米ノ節減ヲ制ルノ外一選ノ
消費規正ヲ強化スルモノトス

四獨ソ調停對策

(1) 獨ソハ調停セシムルヲ要ス
但國內不統一

第二助(十月、十一月、十二月) 情況

配付者
定
處
理
演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係
歐 洲 關 係

一、在支米空軍ハ我國ノ連續討伐ニ拘ハラズ漸
増ノ傾向ニアリ
ニヤ一ニ風變上陸戰中

三、米ノ實收五九〇〇万石(昨年ヨリ八〇〇
万石減收)
三、十一月迄ノ造船成績ハ計發露實場ス
三、四月ヨリ十二月迄ノ船舶専安九〇万噸

一、十月上旬米英軍「シシロ」
ニヤ一ニ風變上陸戰中
三、本年米穀對伊ノ給養總費總額は約八〇〇
萬也
三、米ノ生産計畫ノ約九〇%ト推定セラレ

め
く
れ
ず

第二助 (十月、十一月、十二月) 情況

配村者
理 演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係

一、在支米空軍ハ我軍ノ連續討伐ニ拘ハラズ漸
増ノ傾向ニアリ

二、天候回復シ緬印航空戰激烈トナリ空襲回數
昨年ノ二倍弱

三、三月間ノ戰果歸隊破五〇〇機、我八〇機
失

三、渡湖及印度洋海境ニ於ケル敵機隊ノ行動
活潑トナリ、我潜水艦ノ活躍目録マシク三
ヶ月間ノ戰果歸隊沈五〇万屯敵ハ印度及澳洲
ニ増勢シツツアリ

四、南北太平洋航空戰依然激烈ナリ

五、三月月ノ綜合戰果

飛行機歸隊破一三〇〇機 我損害五〇〇機
商船歸隊沈 六〇万屯 我損害一八万屯

一、十一月中旬共英露國ノ在東洋軍首腦、印度
會議ヲ行フ

二、十一月一日經獨逸宣旨、獨逸諸國之ヲ承認
ス

三、國民經濟會議ノ所加リ民心不安ノ象アリ

四、支那ノ食糧本料不足及物價騰貴ハ深刻ナル
様相ヲ見シ餓死續出ス

五、英露兩國ノ在東洋軍首腦ノ會議ニ對シテ
行方唱ワルモノアリ

三、米ノ實收五九〇〇万石(昨年ヨリ八〇〇
万石減收)

朝總三〇〇〇万石、石炭一三億計九〇〇万石

三、十二月迄ノ造船成績ハ計畫超過場ス

三、四月ヨリ十二月迄ノ船舶中央九〇万屯

歐 洲 關 係

一、十月上旬米英軍「シシロ」 「サルチ
ニヤ」ニ強襲上陸激戰中

之ト同時機「シシロ」沖海戰アリ、
兩軍損害

米英艦隊戰艦一隻巡洋三隻屬五隻沈没
伊 艦隊戰艦三隻巡洋四隻屬八隻沈没

二、十一月迄ニ獨逸ハ「ロストフ」洲全部
ヲ占領セリ獨逸ノ對ソ戰果昨年度ノ約
四分ノ三

三、十二月ソ聯攻勢ニ對シタルモ大ナル進
展ナシ

四、對伊ノ通商破壞戰果

三ヶ月間一八〇万屯(「シシロ」戰
戰果ヲ含ム)

一、西葡ハ中立維持ニ激シク
英露兩國次戰艦ヲツツス

二、米英ノ伊ニ對スル通商破壞戰果
三ヶ月間一八〇万屯(「シシロ」戰
戰果ヲ含ム)

三、米英ハ反獨逸戰艦ノ戰果昨年ノ約
戰力世下ヲ大宣傳シツツアリ

三、本年產額伊ノ通商破壞戰果是約八〇〇
万屯

三、米ノ生産計畫ノ約九〇%ト決定セラレ

裏面白紙

めくれず

第一内閣ノ第二勅ニ對スル處置

□ 獨ソ抗戦力判断

現在抗戦力ハ獨逸優勢ナルモ今日ノ戦況ヲ持續スル長期戦ニ於テハソ聯有利ト認ム

理由

1. ソ聯ノ動員余力及耐乏性ノ強大

2. 米ノ對ソ援助ノ效果強化

3. 獨ノ動員余力逼迫、軍需生産力ハ略極點ニ達シタルモノト認ム

4. 米英ノ對歐政策強化ニ依ル獨ノ孤立化

□ 對支對策

一 基本方針 東條内閣ノ現政策ヲ踏襲シ、其實行ノ徹底ヲ期ス、即チ國民政府ノ強化、重慶政權ノ切崩シ、共產軍排撃ヲ目標トシテ軍事外交、政治、經濟上ノ對策ヲ樹立推進ス

二 應急對策

(イ) 食糧問題、絶對的不足アルヲ認識シ其緩和ノ爲、増産、作物轉換買付方法改良、移輸入ニ努ム

(ロ) 衣料問題、支那資本ニヨル絨織工業ノ勃興ヲ認ム

(ハ) 物資問題、物資増産、適正價格政策ヲ採用ス

配付者
處理
演習終了後直ニ返却

めくれず

三軍事務策、對日空襲基地ノ攻撃占據ニ努ム
會議對策

一 國民生活最低限度ノ保證ニ依リ民心ノ安定確保ヲ期スベキ方針並ニ具體的政策ヲ闡明シテ政府ノ施策ニ對スル必要ナル論議ヲ或ル程度封殺シ議會ノ短期終了ヲ期ス
二 國民ノ忠誠心ヲ信賴シテ強壓的ナル政策ノ斷行ヲ回避シ、右翼的極論ニ對シテハ黨政會機構ノ整備、參事顧問制度ノ活用ニ依リ極力舉國一致ノ實ヲ舉ゲシムル様誘導工作ス
三 戦力ノ劃期的増強、低物價政策ノ修正、物資配給制度ノ改革、言論ノ適正指導ニ必要ナル法令的措置ヲ講ズ

四 食糧及國民生活確保問題
食糧問題

第一 恒久對策 (1) 土地制度ノ合理化 (2) 小作料ノ改訂 (3) 農業勞働力ノ確保兵員工員ノ利用、勤勞作業ノ組織化、農村文化ノ確立 (4) 農業經營ノ改良共同作業化集團作業化ノ推進 (5) 生産者申告ノ嚴正ヲ期スル措置實行 (6) 肥料確保並ニ施肥技術ノ改善 (7) 畜牛馬ノ確保 (8) 機甲裝備ノ進歩ニ期待 (9) 朝鮮及臺灣ノ技術推進
第二 應急對策 (1) 米ノ業務用及酒造用並ニ甘薯ノ燒酎及ブタノール用量削減 (2) 供出ノ共同制度及之ニ對スル政治指導力ノ強化 (3) 桑、果樹、

茶、花青團整理ニ依ル代用食糧ノ早急栽培 (4) 農村ノ米食抑制並ニ全般の混食強化 (5) 作物間ノ價格調整ニヨル不急作物ノ抑制 (6) 外米一〇〇〇〇〇石ノ移入確保
國民生活確保問題食糧確保ニ依リ概ネ達シ得ベク之ガ爲現配給量ハ之ヲ切下ゲザルモノトス

第二内閣ノ第二動ニ對スル處置

一、武力面

(一) 獨蘇抗戰力判斷

開戰以來總動員力一八〇〇一〇〇万既往一〇〇〇万ヲ喪失セリ
現兵力九〇〇万ニシテ動員余力ハ四〇〇一五〇〇万ト予想サル
獨現有兵力一三〇〇万ニシテ毎年一〇〇万ノ動員可能ナラン
本年十二月末飛行機ハ陸六三〇〇機一五五〇〇(東部二八〇〇〇)
戰車ハ陸一〇〇〇〇機獨一四〇〇〇(主力東部)ト推定サル

二、經濟面

食糧事情ハ獨側ニ於テ有利ナリ

三、思想面

抗戰意識伯仲セリ、但獨側ニ於テハ異民族對策ニ於テ困難ヲ包蔵セリ

四、外交

蘇側ニアリテハ第二戰線結成ノ希望有力ナリ、獨ハ戰鬪力構成ニ於
テ與國戰力ノ確保ニ確信アリ

對中立國關係ノ樞軸側ニ好轉シツツアルモノ、如シ

五、弱點隘路

蘇一兵員補充能力ノ逼迫、國民生活ノ窮迫、輸送力薄弱、バクー油田地帯

めくれず

獨一占領地統治及歐洲ニオケル與國ノ統合、内線作戰ノ不利
六、結 論
本冬季作戰ニオケル成果ハ獨蘇勢力上ノ優劣ヲ決定スベシ

（一）對支策

對支新政策ノ完遂ヲ圖ルト共ニ食糧生産地ニ對スル作戰及清郷工作ノ強化ニヨリ食糧ノ現地自給ヲ圖ルコトヲ軍ニ要望シ更ニ投機ノ抑壓ヲ強行シテ物價騰貴ヲ防グ

（二）議會對策

現在ノ政策ヲ狀勢ノ變化ニヨツテ更ニ強化スルコトハ考慮スルモ強力政策即時實行ノ必要ハ認メズ

（四）食糧對策

- 1 第一勳答申ニ全ジ
- 2 國民生活最低限度

本課題ニ對シテハ科學的檢討ヲ周到ナラシムル

衣：衣料生活ノ壓縮、全面的切符制強化

住：企業整備、遊休施設回收ニヨル住宅緩和

食：食糧問題ニ關シソノ最低限ノ檢討ハナスベキモ速ニ施策ニ

ウツスハ一考ヲ要ス
切符制再檢討ト強化

第三内閣ノ第二動ニ對スル見解

（一）獨「ソ」ノ抗戰力判明

獨

一、現國力ヲ概ネ維持シ昭和十九年度

ニ於テモ引續キ本年程度ノ攻勢作

戰ヲ實施スルニ概ネ支障ナキモノ

ト判断ス。

二、弱點隘路1、石 油

2、食 糧

3、人的資源

「ソ」聯

一、領土ノ廣大、資源ノ自給性人的資

源ノ豊富、計畫經濟組織ノ未ダ破

綻シアラザル點等ヨリシテ長期抗

戰ノ能力ヲ有スルモノト判断ス。

而シテ未ダ對獨積極作戰（局部的

反抗ヲ含マズ）ハ實施シ得ザルベ

シ。
二、弱點隘路1、軍需工業力

2、食 糧

3、軍ノ素質低下

（二）對支政策

一、對支新政策ノ徹底強化

二、食糧不足ニ對シテハ

イ、戒船及佛印船ヲ使用シ、泰、佛印ヨリノ米ノ輸入ヲ促進ス

ロ、我方ノ積極的指導ニ依ル米穀ノ増産

めくれず

三 對重要運輸物資確保シ將來ノ汪清合作ニ備フ
四 議會對策

概ネ現内閣ノ諸政策ヲ強行徹底化シ専ラ戦力昂揚ニ邁進シ驕敵ナル主張ハ抑制ス

一 議會ニ對シテハ之ガ適切ナル指導ヲ行ヒ議會ト共ニ舉國一致体制ヲ益々強化シ、國民ヨリ益上ル時局認識ヲ昂揚ス

二 議會ヲ通ジ樞軸諸閣トハ懇々緊密聯絡シ、百万ニ對スル政府ノ諸施策ヲ更ニ明確ニ宣明ス

食糧對策（國民生活ノ最低限度）
一 本年度ニ比シ不足スル内地ノ米麥約一〇五〇万石ニ對スル對策如下ノ如シ

(イ) 滿洲國ヨリノ雜穀輸入ノ促進ト鮮米移入ノ確保

(ロ) 酒造米削減、代用食ノ配給

(ハ) 外米輸入ヲ本年通トシ仍不足スル部分ニ付テハ農家消費ノ抑制、休閒地利用等ニ依ル代用食増産ヲ企圖ス

(ニ) 料理店等ノ閉鎖ニ依リ副食物ノ配給ヲ極力合理化ス

食生活ニ關スル現在ノ程度ハ概ネ最低限度ナリト認ム

第四 對日關係ニ對スル處置

一 現存抗戰力ハ救運側ニ於テ優勢ナルモ時日ノ経過ト共ニソ聯側ニ優勢ニ傾マツアリ

一 現有抗戰力ハ救運側ニ於テ優勢ナルモ時日ノ経過ト共ニソ聯側ニ優勢ニ傾マツアリ
一 ドイツ側ノ弱點ハ人的資源、食糧問題、及國民思想的方面ニ存スルニ對シソ聯側ニ於テハ現有生産力擴張ニ對シテ努力ナルヲ以テ將來米國ヨリノ補給円滑ニ進捗スルヤ否マシアリ

(二) 對支政策

一 重要國防資源獲得ニ必要ナル地域並ニ戰略據点ニ於ケル民衆ノ最低限生活保障ヲ目標トシテ對策ヲ樹立ス

二 汪政權ニ對シ責任アル統治ノ徹底ヲ要求シ、隱匿物資、供給、意旨配給機構、整備ヲ強化ス

三 滿洲及南方ヨリノ輸入増ヲハカル

又日本内地ニ於テ衣料ヲ壓縮シコレヲ引當テニ糧穀ノ蓄積ヲ促進ス

めくれず

ハ河南河北方面ニ於テ食料獲得ノメニ新作戰ニ関シ大本營ニ要請ス

(三) 議會對策

ハ右翼政策ニシテ採ル可キハ之ヲ採用ス
ニ必要ニ底ジ企業ノ國家管理、國營等ヲ行フ
又民間企業ニ付テハ企業ノ所有ト企業ノ經營ト分離ヲ確立ス
又國民決勝意識ノ昂揚

(四) 食糧對策、國民生活ノ最低限度

一 主食ニ對スル全面的切符制ノ実施
二 酒造米ノ半減
三 其他食糧増産ノ強化徹底
四 主食ノ共同炊事ノ勸奨
五 勞務者、農民ノ作業衣及乳幼児ノ衣服以外ノ衣服新調停止

第五內閣ノ第二勅ニ對スル處置

(一) 對逸及ビソ聯ノ交戦力判別

獨逸ノ交戦力ノ限度ニ達シ大規模進攻作戦ハ續行不能
ソ聯ノ交戦力ノ限度ニ近ツキツアルモ消極防禦作戦ヲ續行可能、但シ
米英ノ強力ナル援ソニヨリテハ積極攻勢作戦可能トナル公算アリ

(二) 對支政策

(1) 根本的ニハ現在ノ對支政策ヲ強行實施シ、國民政府ノ政治力侵透ヲ
ハカル
(2) 占領地帯ニオケル生活狀態ノ逼迫ニツイテハ
イ 歸郷運動ヲ一層強行シ
ロ 全國商業統制總會ニ於ケル中國側ノ創意ト責任ヲ可及的ニ發揮セ
シメ生必物資ノ蒐荷配給ニ一層ノ努力ヲナス

(三) 議會對策

再開當初ノ議會ヲ通ジテ必勝ノ所信ヲ披瀝シ國民ノ士氣昂揚ヲ圖ル

めくれず

食糧對策

- (1) 從來ノ對策ヲ強化ス
- (2) 酒米ヲ全廢シ酒ノ不足分ハ可及的合成酒ヲ以テ之ヲ補ヒ其ノ配給ニ關シテハ更ニ重禁ニ徹ス
- (3) 食料切符制ヲ整備シ家庭配給ト外食トノ綜合調整ヲ計ルモノトス
- (4) 食料増産應急對策ヲ更ニ強化スルト共ニ農村總力ヲ食料増産ニ向ヒ凝集ス
- (5) 外米船腹ハ増加セズ

第六内閣ノ第二動ニ對スル處置

「獨一ソ」ノ抗戦力判断
 短期戦ニ於テハ獨ニ有利ナルモノ「ソ」ハ長期持久戦ニ於テ有利ナリ
 獨ノ強點 「ソ」ノ強點

(2) 之カ實施ニ當リテハ責任官職ノ設置並ビニ之ガ實現ノ一大國民運動ヲ展開

食糧對策

- (1) 業務用及酒米ノ廢止
- (2) 食料綜合切符制ノ實施
- (3) 外地米ノ配給ノ確保
- (4) 現在ノ食料配給量ヲ以テ食料ノ面カラ見タル國民生活ノ最低限度ト認メ一人當配給量ハ現狀ニ止メ其ノ爲ニ右(1) (3)ノ措置ヲ講ズルモノトス

めくれず

第六内閣ノ第二動ニ對スル處置

〔獨「ソ」ノ抗戦力判断〕

短期戦ニ於テハ獨ニ有利ナルモ「ソ」ハ長期持久戦ニ於テ有利ナリ

獨ノ強點

- 1 裝備、統率、兵ノ素質等武カニ於テ優ル
- 2 生産力優ル

獨ノ弱點

- 1 人口少シ
- 2 占領地異民族統制容易ナラス
- 3 原料資源少シ
- 4 被包圍的膠着ニアリ

「ソ」ノ強點

獨ノ弱點ニ反ス外

- 1 土地廣大等自然的條件有利
- 2 文化低キ爲困苦缺乏ニ堪へ得
- 3 米英ノ援助可能

「ソ」ノ弱點

獨ノ強點ニ反ス

〔對支政策ヲ確立スルニ對シテ〕

新政策ニ基キ國民政府ヲ益々育成強化ニ努ムルモ當面ノ處置トシテ左ノ政策ヲ確立實施ス

- 1 西方地區ニ對スル民族ノ大異動促進
- 2 滿洲、蒙疆ノ雜穀ヲ移入シ支那側軍隊警備隊警察官吏並重要國防資源地帶勞動者ノ生活ヲ確保ス
- 3 戒克ニ依ルビルマ佛印等ノ移入ニ對シテ積極的援助ヲ與ヘ食糧對策ヲ講セシム

〔對食政策〕

(1) 國民生活ノ最低限度確保ニ對スル訓期的方策トシテ皇國民本來ノ實情ニ依リテ戰争生活基準ノ確立ヲ圖ル爲戰時國民生活設定法案ヲ提出ス

(2) 之カ實施ニ當リテハ責任官廳ノ設置並ビニ之ガ實現ノ一大國民運動ヲ展開ス

〔食糧對策〕

- (1) 業務用及酒米ノ廢止
- (2) 食糧綜合切符制ノ實施
- (3) 外地米ノ配給ノ確保
- (4) 現在ノ一割配給量ヲ以テ食糧ノ面カラ見タル國民生活ノ最低限度ト認メ一人當配給量ハ現状ニ止メ其ノ爲ニ右(1) (2) (3)ノ措置ヲ講ズルモノトス

第三勁 (十九年一月、二月、三月) 情況

配指	定
處	理
演習終了後直ニ返却	

大 東 亞 關 係 歐 洲 關 係

<p>一、「ニューギニヤ」方面航空戰及輸送破壞戰晝夜連續シ益激化シ數百機ノ編隊ヲ以テスル大空戰毎月數回ア</p> <p>二、二月上旬、印度軍重慶軍一齊ニ緬甸ニ反攻シ激戰中ナリ敵ノ總兵力六〇万ヲ下ラズ飛行機約二千機ト推定セラル、舟艇「カルカッタ」方面ニ多敵ア</p> <p>三、二月下旬敵艦隊「アンダマン」基地ニ來襲上陸ヲ企圖セルモ我方頑強ニ抵抗之ヲ喫退セ</p> <p>四、三ヶ月間ノ綜合戰果及損害 飛行機墜破一五〇〇機 我六〇〇機失</p>	<p>一、「バルカン」ニ於ケル小衝突ニ端ヲ發シ一月二十日土ハ反樞軸側ニ參戰、米英ノ援軍土ニ進駐シ英艦隊ノ一部ハ黑海ニ進入セ</p> <p>二、「シシリー」「サルチニヤ」ハ伊海軍ノ敗退ニ依リ米英軍優勢ナリ</p> <p>三、二月上旬、米伯軍「アゾレス」諸島ニ進駐セ</p> <p>四、獨ソ戰線膠着</p> <p>五、獨伊ノ通商破壞戰戰果 三ヶ月合計 一六〇万屯</p>
---	---

めくれず

艦船 沈没三〇万屯 我三二万屯失

- 一、印度ノ反英行動通謀セリ
- 二、緬甸人ノ戰意極メテ旺盛ナリ
- 三、佛印、禁ニ於テ戰局ニ關スル流言多ク親米英派蠢動ノ徴アリ
- 三、十八年度製鐵量
- 普通鋼々材四〇〇万屯
- 三、動員増加(勞務動員計費策定)
- 陸海軍合計二〇万人
- 三、陸海軍ハ「輕命關」増添ト「アルミ」ノ全部ヲ軍使用ニ要求セリ
- 三、支那ニ對スル印度方面ヨリノ空中輸送活潑ナリ

一、獨ヨリ日獨伊會談提案

議題

日本ノ對ソ開戰、技術物資交換等

- 一、葡ハ米伯軍ノ「アゾレス」進駐ニ對シ兩國ニ形式的ノ抗議ヲ爲シ爾後何等表面化セズ
- 二、米ノ言論ハ獨打倒第一主義強調ニ轉向セ
- 三、獨ハ非鐵金屬及油脂類ノ要望切ナリ

第一内閣ノ第三動ニ對スル處置

- 一、米英ノ對日企圖判斷
- 當面敵ハ潜水艦戰ノ強化、航空機ニヨル日本戦力ノ消耗破碎及ビビルマ奪還、援將路ノ確保擴充、支那ニ東亞第二戦線ヲ結成セント企圖スルモノト判斷ス
- 二、日蘇開戰問題及樞軸提携強化策
- (1) 日蘇關係、武装中立政策ノ強化ヲ方針トス、對蘇開戰ハ蘇軍及蘇聯政權ノ崩壊ノ見透シ明瞭トナラザル限り避クベキモノトス
- (2) 樞軸提携強化策
- (イ) 滿蘇國境ニ兵力ヲ増配シ、蘇軍ノ釘付ケヲ圖ルコト
- (ロ) 艦船、航空機ニヨル交通線ノ設定確保
- 三、勞務動員ト學校教育

指 定	
配 付 者	
處 理	演習終了後直ニ返却

〔勞務關係〕

めくれず

- (1) 中小商工業者、各業種別冗員者、戦時重要生産へノ轉換強化
- (2) 女子勞務員ノ代替制度強化
- (3) 國民勤勞報國隊制度ノ整備強化
- (4) 戦時適正賃金制ノ再檢討

〔三〕學校教育

- (1) 理工科技術關係學生ノ養成増強
教育計畫ニ基ク文科系統諸學校ノ整理
- (2) 不緊要各種學校ノ整理
- (3) 私立學校制度ノ再檢討
- (4) 教育方針ノ確立

- (イ) 歴史教育ノ刷新 (ロ) 修練制度ノ強化 (ハ) 女子教育ノ刷新 (ニ) 科學教育ノ振興 (ホ) 大學教育刷新

四 鐵鋼及アルミ増産方策

第一、鐵鋼

- 一、生産作業上ノ統合合理化 (國家補償ヲ考慮)
- 二、原料調達ニ關スル新製法ノ改善

- 三、海南島石炭日獨ノ開發促進
- 四、鐵鋼消費部面及關聯事業ノ生産合理化
- 五、地域別需給ノ適合
- 六、食糧處理ノ促進 (官設民營ノ考慮)
- 七、鐵鋼統制會ノ計畫生産体制ノ強化
- 八、南方及支那ノ小型熔鐵爐建設促進

第二、アルミ

- 一、南方ボーキサイトノ入手絶對確保
- 二、國産原料 (明礬石及礬土頁岩) ノ利用促進
- 三、電力ノ超重量的配分並ニ積極的開發
- 四、副資料 (螢石、ツチコークス等) ノ確保

第二内閣ノ第三勅ニ對スル處置

一、鐵ノ對日企圖

米ハ對獨鐵線ニ重點ヲオキ東洋ニ於テハ日本ノ戰力增強ヲ極力阻害ス
ルト共ニ資源奪回據點ノ獲得ニ努ム

先配給

(4) 鐵鋼材規格ノ單純化ニ依ル能率増進

(5) 以上ノ外從來ノ鐵鋼ニ關スル勞務、輸送、食糧ニ關スル諸施策
ノ徹底化ヲ圖ルコト

(6) 恒久對策

(1) 製鐵用原料ノ賦存狀況ニ鑑ミ、製鐵設備ノ擴充ハ原料地タル北
支、滿洲、朝鮮ニ於テ行フコト

(2) 内地ニ於ケル鐵鋼石ノ不足ニ鑑ミ、砂鐵、粉鐵ノ處理等特殊製
鐵法ニ關スル技術的研究ヲ徹底的ニ行ヒ可及的ニ之ガ工業化ヲ

めくれず

第二内閣ノ第三動ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

米ハ對獨鐵線ニ重點ヲオキ東洋ニ於テハ日本ノ戰力増強ヲ極力阻害ス
ルト共ニ資源奪回據點ノ獲得ニ努ム

(1) 對日交通破壞

(2) 資源奪回據點獲得

(3) 與國ニ對スル思想戰工作

(4) 對日空襲

二、日ソ間戰問題及極軸提携強化方策

日ソ開戦ハ極力回避スルモ米ソ接近シソ聯ノ極東基地ヲ米國ニ貸與ス
ル如キ狀勢ヲ極力警戒ス

日獨伊ハ各其ノ方面ニ於ケル趨勢ヲ強化シ物資交換ハ出來ル限リ之ヲ
行フ

三、勞務動員、學校教育ノ問題

(1) 女子徵備ニヨリ男子勞務者ニ代替

(2) 學校教育内容ヲ再檢討シ

之ヲ實際生産作業ニ結ビツケ、夫々關連事業ニ對シテ勤勞ヲ強行ス
ル事(工場ノ青年學校化スルト工場モ學校教育ノ一部ヲ擔當スル)

(3) 一般勤勞者ニ更ニ組織的ニ強化(期間延長等)スル事

(4) 生産指導ノ確立

(5) 占領地勞務者(主トシテ支那)ノ移入

四、鐵鋼増産方策

(1) 鐵鋼増産問題

(2) 鐵鋼増産問題

(1) 軍ノ協力ニ依リ南方ノ鑽石、北支製鐵用石炭ノ輸入増大ヲ圖ル
コト

(2) 屑鐵回收ノ強化

(3) 原料地ニ於ケル小型熔鐵爐ノ完成促進、熔鐵爐用設備資費ノ優
先配給

(4) 鐵鋼材規格ノ單純化ニ依ル能率増進

(5) 以上ノ外從來ノ鐵鋼ニ關スル勞務、輸送、食糧ニ關スル諸施策
ノ徹底化ヲ圖ルコト

四、恒久對策

(1) 製鐵用原料ノ賦存狀況ニ鑑ミ、製鐵設備ノ擴充ハ原料地タル北
支、滿洲、朝鮮ニ於テ行フコト

(2) 内地ニ於ケル鐵鋼石ノ不足ニ鑑ミ、砂鐵、粉鐵ノ處理等特殊製
造法ニ關スル技術的研究ヲ徹底的ニ行ヒ可及的ニ之ガ工業化ヲ

裏面白紙

樹ルコト

(5) 層位代用ノ海綿鐵等ノ生産ニ努力スルト共ニ層鐵ノ配合割合ノ引下等技術的改良ヲ考慮スルコト

丙 アルミニウムノ増産問題

(1) 輸送力ノ確保ニ依ル南方ポークサイドノ移入ノ増大ヲ樹ルコト

(2) 電力ノ輕金屬工業ヘノ優先配電ノ徹底化ヲ樹ルコト

(3) 螢石、電極ノ増産輸送ノ確保ヲ樹ルコト

(4) アルミニウム生産ニ關スル優秀技術ノ公開ヲ樹ルコト

(5) 礬土頁岩ニ依ルアルミニウム生産ニ付キ電力消費ニ重點ヲ置キ技術ノ改良ヲ樹ルコト

第三内閣ノ第三動ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

米國々力ノ上昇ニ伴ヒ歐洲情勢ノ進展竝ニ米國々内事情トモ睨ミ合

二、樞軸提携強化方策

- (1) 三國ノ政治的、精神的提携ノ強化（首腦部會議）
- (2) 三國ノ作戦ノ連繫強化（大本營ニ要望）
- (3) 相互ニ軍事、技術、物資ノ交流促進。（特ニ帝國ハ獨ニ鐵「アルミ」ノ獨船ニヨル提供ヲ要望ス）
- (4) 亞歐ノ連絡路強化

A 航空機

B 潜水艦

第三内閣ノ第三動ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

米國々力ノ上昇ニ伴ヒ歐洲情勢ノ進展竝ニ米國々内事情トモ睨ミ合セ對日總反抗ニ轉ジ來ルモノト判斷セラレ。之ガ爲左ノ諸件ヲ行フナラン。

(1) 「アリユウシヤン」方面ヲ基地トスルモノ及空母ヨリスル本土空襲

(2) 支那ヲ基地トスル本土空襲（「ビルマルト」再開ヲ目スル少クモ北部「ビルマ」ノ奪回）

(3) 帝國占領地ノ奪回（「ビルマ」「アングマン」「チモール」「ビスマルク」「ウエーク」等）

(4) 通商破綻戰ノ激化及占領地變部ニ對スル空爆激化

(5) 「ソ」ノ抱込強化、濠洲ノ強化

(6) 支那ニ於ケル總反抗

(7) 泰佛印ニ對スル宣傳戰ニヨル我基地擾亂

二、日「ソ」開戰問題及樞軸提携強化方策

〔日「ソ」開戰問題〕

(1) 帝國ハ「ソ」聯ヨリ挑戰又ハ米「ソ」提携強化シ沿海州ヲ帝國本土空爆ノ基地タラシムルノ危険ナキ限リ對「ソ」開戰ヲ行フ事ナシ。

(2) 獨ニ對シテ「ソ」開戰ノ齎ラスベキ影響即チ帝國戰力ノ分散及予想サルベキ對「ソ」戰長期化ニヨル國力ノ消耗ハ樞軸側全體トシテ有利ナラザルモノニシテ帝國ハ對米英戰ニ專念スルヲ以テ樞軸側全體ノ利益ナル旨ヲ以テ應酬シ且ツ此際獨ニ對シテ獨「ソ」ノ和平止ムヲ得ザルモ東守西攻ヲ勸告ス。

〔樞軸提携強化方策〕

(1) 三國ノ政治的、精神的提携ノ強化（首腦部會議）

(2) 三國ノ作戦ノ連繫強化（大本營ニ要望）

(3) 相互ニ軍事、技術、物資ノ交流促進。（特ニ帝國ハ獨ニ鐵「アルミ」ノ獨船ニヨル提供ヲ要望ス）

(4) 亞歐ノ連絡路強化

A 航空機

B 潜水艦

地中流、印度洋ヲ通ズル直接連絡ヲ可能ナラシムル如ク獨ノ國
策ヲ指導

三 勞務動員ト學校教育

(1) 有閑女子ヲ徵用スルト共ニ女學校ノ修業年限短縮ヲ行ヒ卒業者ヲ義
務的ニ勞働ニ服セシム。之ヲ活用シテ可及的速カニ女子ヲ以テ代へ
得ル勞働部面ヲ多クス

(2) イ 不要不急ナル法經文系統ノ專門學校以上ノ閉鎖

ヲ行フ。但シ教育ノ事ハ國家百年ノ大計ニ關スルヲ以テ、

法經文系統ノ極メテ優秀ナル少數學生ヲ殘シテ專念研究セシムルコ
ト

自然科學方面學生ノ保護育成ヲハカリ、早急ニ軍需ニ應ジ得ル技術
者ノ多數ヲ得ルト共ニ、深遠ナル學理ヲ探究セシムルコト
ヲ忘ルベカラズ

四 鐵アルミ増産方策

〔アルミ〕

- (1) 戒克船等ヲ利用スル「ボーキサイト」輸入ノ促進
- (2) 鑛土質岩法ヲ完成シ之ガ企業化ヲ圖ル

(B) アルミ製品ノ回收

円鐵

- (1) 小型熔鐵爐ノ急速増設、砂鐵等ノ利用
- (2) 屑鐵回收ノ徹底
- (3) 軍需品ノ企劃統一
- (4) 旅客列車ノ壓縮等ニ依ル輸送力増強

第四内閣ノ第三動ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

(1) 敵ハ歐洲第一主義ニ依リ伊ノ屈伏アルカ之制覇ニ依ル獨ノ石油資

源ノ奪取及ソノ側背ヲ牽制セント企圖シアルモノ、如シ

(2) 同學校ノ整理（文科系統ノ壓縮、女子教育機關ノ壓縮）
(3) 學校報國隊ノ活動強化

四、鐵アルミノ増産對策

(1) 鐵ノ増産對策

- (1) 鐵鑛石運搬専用ノ船組ノ増加
- (2) 小型熔鐵爐ノ擴充

第四内閣ノ第三勅ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

- (1) 敵ハ歐洲第一主義ニ依リ伊ノ屈伏アルカニ制期ニ依ル獨ノ石油資源ノ奪取及ソノ側背ヲ牽制セント企圖シアルモノ、如シ
- (2) 米ハ「ニューヨーク」中心ノ戰闘ニ依リ我ノ戰略地點強化ヲ極力妨害シ爲シ得レバ「アリューシヤ」之「ウギニヤ」南洋群島ヘノ侵入ヲ企圖スルナラン
- (3) 英ハ重慶及米ノ援助ニ依ル「ビルマ」奪回ヲ企圖シアリ
- (4) 敵ハ在支航空力ヲ強化シ機ヲ見テ對日空襲ヲ企圖シアリ

二、日ノ開戦問題及樞軸提携強化

- (1) 日ノ開戦ハ斷ジテ之ヲ避クルモノトス
- (2) 獨「ソ」調停ノ意圖ハ之ヲ捨テズ常ニ接觸ヲ保持ス
- (3) 獨ノ日獨伊會談提案受諾
- (4) 對ソ作戰ニ代ヘ敵ノ「ビルマ」奪回ノ企圖ヲ徹底的ニ打破シ印度ニ侵攻氣勢ヲ示シテ英ヲ牽制ス
- (5) 停戦中ノ獨ノ船舶利用ニヨリ日獨交通路ノ強化ニ依リ日本ヨリ南方資源ヲ獨ニ與ヘ獨ヨリ工作機械、技術者ヲ日ニ輸入ス
- (6) 日ハ占領地確保ニ万全ヲ期シ不敗態勢ノ確立強化充實ニ一路邁進ス

三、勞務動員ト學校教育

- (1) 徴兵適齡期十九才ニ引下
- (2) 勤勞義務制ノ實施
- (3) 勤勞報國隊組織、國民勤勞協力令ノ強化
- (4) 半島人、臺灣人、捕虜ノ活用
- (5) 學校關係

(4) 教育、軍事、産業ノ三位一體化

(4) 學校ノ整理（文科系統ノ壓縮、女子教育機關ノ壓縮）

(4) 學校報國隊ノ活動強化

四、鐵アルミニノ増産對策

- (1) 鐵ノ増産對策
- (4) 鐵鑽石運搬専用ノ船舶ノ増加
- (4) 小型熔鑄爐ノ擴充

- ハ 國內ニ於ケル鐵ノ徹底的回收
 - ニ 滿洲支那ニ於ケル製鐵事業ノ擴充強化
 - ハ 代用鐵石ノ使用
 - ハ 原料炭ノ徹底的消費規正
- (2) アルミノ増産對策
- (イ) 現在ノ擴充計畫ノ急速實現
 - (ロ) 朝鮮滿洲ニ於ケル生産増加
 - ハ 國內ニ於ケル銅ノ増産、銅供出ノ徹底強化ニヨルアルミノ消費抑制
 - ニ 代用鐵使用ニヨル生産増加

第五内閣ノ第三動ニ對スル處置

一、敵ノ對日企圖

米國戰力ノ大部ハ依然對日作戰ニ指向セラレベシ、

(1) 武力戰企圖

(イ) 空母及支那非占領地區ヲ基地トスル我本土中樞部ノ空襲

(ロ) 「ニューギニア」方面及「アリュージャン」方面ヨリスル反攻

(ハ) 印度方面ヨリスル「ビルマ」奪回作戰

(ニ) 通商破壞戰
等ノ諸策ノ強化ニ依リ對日反攻及我國力ノ消耗ヲ企圖スベシ

(2) 外交戰企圖

(イ) ソ聯ノ對日戰策加強要

(ロ) 佛印、泰ニ對スル思想戰強化(思想戰)

二、日ソ開戰問題ト樞軸強化方策

日ソ開戰問題ト樞軸強化方策ハ不可分ノモノト見テ次ノ如キ方策ヲトル、
(イ) 日獨伊會談提起ハ獨ソ和平ノ第一次的檢會ト見ル故ニ獨メ意向ヲ打

診シタト、會談開催ニ無ク、會談ノ方式ハ形式的方式ヲトラス、問題

めくれず

題ノ根源ニツキ、充分ナル意見ノ交換ニ資スル如クス
日ソ開戦ハ極力回避スル方針ヲ踏襲ス、但シ日獨伊會談及ビ之ニ次
グ外交進展ニ應ジテ、止ムヲ得ザル場合ヲ考慮シ、對ソ開戦ノ強力
ナル準備ヲ促進ス

曰 樞軸強化方策
(1) 獨ソ和平ヲ窺ル根本的三國關係強化方策ハ以上ノ觀點ニヨリ之ヲ
推進ス
(2) 技術物資ノ交換ハ可及的促進ヲハカル

三 勞務動員ト學校教育

- (1) 企業整備ノ徹底的遂行
- (2) 婦人勞力ノ擴大及之ニ依ル男子勞力ノ轉換ノ強化
- (3) 專門學校以上(戰力増強ニ直接必要ナルモノヲ除ク)ノ閉鎖

四 鐵アルミニウム増産問題

從來ノ増産諸方策ノ強化ニ努ムルト共ニ特ニ海上輸送力ノ確保ニ萬全
ヲ期ス
尙現地(南方ヲ含ム)ニ於ケル製鐵施設ノ設定活用ニ努ム

第六内閣ノ第三勅ニ對スル處置

一 敵ノ對日企圖

米英軍ハ先ツビルマ方面ノ奪回ニ依リ同方面ヨリスル側面的反攻ヲ策
シツツアリ

二 日ソ開戦並樞軸提携強化方策

(1) 日ソ開戦ハ不可ナリ

三 勞務動員ト學校教育

- (1) 文科系(專門學校以上)ノ即時閉鎖
- (2) 理科系(專門學校以上)ノ年限短縮
- (3) 女子勞力ノ徹底的活用

四 鐵「アルミ」ノ増産對策

- (1) 支那及滿洲ニ於ケル層煤及「アルミ」ノ回收
- (2) 砂鐵ニ依ル増産
- (3) 戒克等ニ依ル輸送力増強

第四動（四月、五月、六月）情況

指 定	
配 付 者	
處 理	演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係

- 一、通商税
- 二、空襲被害ニ關スル流言多シ（八幡、臺灣全滅海上交通杜絶等）北九州臺灣ノ人心不安
- 三、政府部内ニ災害地ニ戒嚴令ヲ施行スベシトノ意見アリ
- 三、南方産業開發機本噸油石油生産復舊
- 「ニューギニア」方面以外食糧自給略完成
- 三、商船ノ被害甚大ニシテ南方物資輸送力
- 六月迄ノ統計昨年度ノ八〇%

欧 洲 關 係

- 一、獨對土戰熾烈獨軍「イスタンブール」ヲ
- 三、「ルーマニア」油田ニ對スル敵ノ猛爆ニ依リ獨ハ石油補充ニ困難ヲ來シツツアリ
- 同油田ノ損害三〇%

めくれず

第四動（四月、五月、六月）情況

指 定	
配 付 者	
處 理	演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係

一、緬甸戰線
 英印軍ハ「アキアブ」ニ迫リタルモ漸次之ヲ北方ニ壓迫中重慶軍トハ國境ヲ狹ミ對戰中ナリ
 五月下旬以後天候不良トナリ戰況發展セズ
 五月以降在支米空軍西日本及支那海空要關西二回、北九州五回、臺灣二回、海南島及南支那海航路三〇回、毎回敵機乃至五〇機編隊延一二〇〇機内襲撃約一五〇機撃破三〇〇機
 我方損害船隻三隻、燒損鐵工廠、電力工一〇万キロ、商船一五万屯、南支那海ノ航路五月半減
 三、「ニューギニヤ」方面航空戰連續
 四三ヶ月間ノ綜合戰果及損害
 飛行機撃破一四〇〇機 我五〇〇機失
 商 船 擊沈 二五万屯 我三〇万屯失
 一、五月一日米英ハ泰國人ヲ敵國人扱ニセズト聲明
 二、空襲被害ニ關スル流言多シ（八幡、臺灣全滅海上交通杜絶等）北九州臺灣ノ人心不安
 二、政府部内ニ災害地ニ戒嚴令ヲ施行スベシトノ意見アリ
 三、南方産業開發機本願石油生産復舊
 「ニューギニヤ」方面以外食糧自給略完成
 三、商船ノ被害甚大ニシテ南方物資輸送力
 六月迄ノ統計昨年度ノ八〇%

歐 洲 關 係

一、獨對土戰激烈獨軍「イスタンブール」ヲ攻略シ「ダーダネルス」海峡ヲ狹ミ對戰中
 米英軍ハ多島海諸島ヲ占領シ「クレタ」島孤立化セリ、尙「ルーマニヤ」油田ニ對スル爆撃猛烈ナリ
 二、五月「サルヂニヤ」全島米英軍ニ降シ、「シシリ」島ニ於テハ尙激戰中
 三、六月末ノ敵ノ「バルカン」上陸ハ失敗セリ
 四、獨伊ノ通商破壞戰々々
 三ヶ月間 一二〇万屯
 一、四月一日亞國ハ樞軸倒ト斷交セリ
 二、西葡ハ依然中立ヲ維持シアリ
 一三、米大統領選舉近ヅキ「ルーズベルト」ノ四選略確實ナリ
 二、「バルカン」諸邦動搖大トナリ「ユウゴラウ」等ニ於ケル反獨謀略頻繁ナリ
 二、佛官民ノ盲動阻止ノ爲四月以後獨ハ佛全部ヲ軍制下ニ置ケリ
 三、日獨物資交換順調ナリ
 三、「ルーマニヤ」油田ニ對スル敵ノ猛爆ニ依リ獨ハ石油補充ニ困難ヲ來シツツアリ
 向油田ノ損害三〇%

裏面白紙

第一内閣ノ第四勅ニ對スル處置

配指	定
處	理
演習終了後直ニ返却	

一、世界情勢判断

米英反樞軸陣營ハ嘗而スル世界戰局ニアツテ相對的有利性ヲ保持シテ、從ツテ米英ハアクマデ全戰局ニ直ツテ軍事の攻勢ヲ増強持續スルモノト判断ス、カクテ現段階敵ノ對日企圖ハビルマ作戦ノ完遂支那ヲ基地トスル日本本土侵襲ノ強化、タイ佛印ノ擾亂ヲ行ナハントスルモノ如シ、

二、外交思想概観

對獨伊戰線ニオイテモ依然軍事の攻勢ヲ持續強化スルモノト思惟ス、ナホ現段階ニアツテハ獨ハ戰意ヲ喪失シツツアルモノトハ考ヘズ、獨英和解モ可能性ナシ、ソ聯ハ對日中立政策ヲ堅持スルモノト判定ス、

〔對「タイ」國思想謀略概観（ビルマ、比律賓等ニ對シテモ同ジ）〕

（一）頭細頭人ノ頭細頭主義ヲ標榜ス

（二）政治經濟而ニ於ケル合理的ナル民族主義ノ容認

（三）對米英思想謀略概観

（一）日本ノ戰時的態勢ハ絕對不敗ノ地位ニ在ルヲ實際ノ戰況ニ基キ徹底的ニ認識セシム

（二）共英國內ノ開發進展シテ、敵側ノ長期消耗作戰ニハ成算ナキヲ認シ、對日戰線ノ意義ヲナカラシム

（三）對獨關係
獨蘇和平ヲ勸説、物資技術ノ交流、石油ノ供給ニ努ム

三、國內對策

（一）戒嚴令施行ノ可否

北九州及臺灣共戒嚴令ノ施行ヲ要セズト認ム

臺灣ニハ一應考慮ノ余地アルモ左記理由ニヨリ未ダ時期ニ非ズ

（二）民族運動ノ低潮

（三）食糧ニ不安ナキコト

（四）支那事變後敵回ノ空襲經驗ニ於テ民情極メテ良好ニ推移シ來レルコト

（五）陸海軍志願兵制實施成績ノ良好ナルニ鑑ミ本島人ノ皇國協力意識旺盛ナルコト

（六）戒嚴令實施ニ依ル對外國關係並ニ内地人心ニ對スル影響渺カラズト

裏面白紙

認ララルコト

三 流言ノ防遏並ニ取締措置ノ強化

イ 作戦ニ支障ヲ來サザル範圍ニ於ケル即時發表

ロ 國民志氣昂揚ノ國民大會ノ開催（翼壯活動）

ハ 新聞ラヂオ映畫等ニ對スル内而指導ノ徹底

ニ 一罰百戒的取締方針ノ明示

ホ 共產主義及民族主義（暴論）ノ策謀彈壓

四 空襲及潜水艦ニ依ル我が經濟破壊ニ對スル緊急措置

イ 休轉爐ノ利用

ロ 復舊作業ノ早期完成（學徒報國隊其他勤勞報國隊ノ出動指示）

ハ 電力調整ノ即時實行

ニ 復舊資材ノ繰替配給ノ早急實施

ホ 防護送船團制ノ強化

五 防空對策

イ 防空兵器及消火器具ノ可急的整備ト防空兵力ノ増強ニ依リ敵ノ對

日空襲被害ノ破碎

回重要工場ノ空爆ノ被害ヲ豫メ考慮シテ之レガ代替ノ計畫的措置ヲ講ジ置ク事

イ 動力、給水、瓦斯路ノ破壊ニ對スル應急處置ヲ講ジ置ク事

ロ 日本ノ家族制度ヲ利用シテ老幼ノ田舎ヘノ分散

ハ 醫學校ノ學生ヲ醫療方面ニ總動員スル事

ニ 重要官衙等ヲ耐火家屋ヘノ移轉

四 大本營ニ對スル要求事項

□ 船團護送制ノ強化

□ 敵潛艇隊方策ノ強化

イ 驅潛艇ノ増加

ロ 見張ノ強化

ハ 對潛哨戒（飛行機ニ依ル）強化

□ 在支米空軍ノ積極的制壓作戦

イ 在支日本空軍力ノ増強

ロ 在支米空軍基地ノ攻奪占據

四 國內防空兵力増強

第二内閣ノ第四回ニ對スル處置

一 空襲對策

□ 敵機對策

1 戰爭遂行ノ決意強固

2 各國戰爭遂行ノタメノ分擔ノ決定

□ 佛印ニ對スル強硬政策準備

四 日獨伊會談

獨ヨリ提案ノ日獨伊會談受諾

議題 (1) 對ソ問題

(2) 戰略問題

(3) 技術物資交換問題

(4) 對佛印問題

- (三) 在支米空軍ノ積極的制壓作戦
- (イ) 在支日本空軍力ノ増強
- (ロ) 在支米空軍基地ノ攻奪占據
- (四) 國內防空兵力増強

第二内閣ノ第四勅ニ對スル處置

一 空襲對策

(一) 敵機對策

- 1 ビルマ及南支那ニ於ケル航空基地兵力ノ増強ニ依ル敵根據地ノ覆滅
- 2 北九州方面ノ防空陣ノ強化

(二) 災害復舊對策

- 1 物資貯勞務ノ優先配給ニ依ル災害地ノ急速復舊
- 2 交通線ノ急速ナル復舊

(三) 治安對策

- 1 臺灣全島ニ戒嚴令施行準備
- 2 國民ノ戰意昂揚ト不隱奮勵ノ取締

四 岡本都府疎開

二 戦力増強對策

從來ノ戦力増強策ヲ強化スルト共ニ新タナル對策トシテ右ノ諸方策ヲ實施ス

- 1 産業戦士ノ優遇
- 2 北支ニ於ケル小型熔鋸爐ノ急速増設
- 3 木造船及戒克ノ急速造船
- 4 輸送力増強ト車輛ノ増備ト小運送能力ノ強化並重裝輸送ノ徹底
- 5 行政査察ノ強化
- 6 潜水輸送船ノ建造

三 共榮圈對策

(一) 共榮圈各國首腦者ノ會談

- 1 戰爭遂行ノ決意強調
- 2 各國戰爭遂行ノタメノ分擔ノ決定

(二) 佛印ニ對スル強硬政策準備

四 日獨伊會談

獨ヨリ提案ノ日獨伊會談受諾

議題 (1) 對ソ問題

(2) 戰略問題

(3) 技術物資交換問題

(4) 對佛印問題

第三内閣ノ第四勅ニ對スル處置

□防空対策

M) 恒久的對策

1. 大都市ノ疎開（人口ノ疎開特ニ諸學校ノ移轉）
2. 新設及復舊工場ノ疎開
3. 退避壕ノ急速増設
4. 都市ニ對スル人口流入ノ制限

(ロ) 緊急對策

1. 此ノ程度ノ狀況ニテハ戒嚴令ヲ施行スルノ要ナシ行政力ニ依リ人心動搖ノ取締指導ヲ徹底ス
2. 防衛區劃、防火改修工事ノ促進
3. 緊急復舊資材、食糧醫療資材ノ確保
4. 防空訓練ノ實戰的徹底

三 大東亞對策

滿、支、緬甸、暹、佛印ノ諸國ノ代表者ヲ以テ東京ニ大東亞會議ヲ開
催シ、我ガ國之ヲ主宰ス。ソノ目的ハ大東亞共榮圈一致協力シテ強
完遂ニ邁進スル現實ノ相ヲ力強ク海外ニ宣明スルト共ニ愈々諸國家ノ
協同團結ヲ固クセントスルニアリ。

比島、印度聯盟、「マレー」「インドネシア」ノ代表者ハ之ヲ陪席セ
シム。

四 對外施策

日獨伊會談ノ急速實現ヲ期シ利伊トノ右ニ關スル交渉ヲ促進ス。
會談ノ目的其他ニ就キテハ第三動研究ニ於ケル當内閣ノ方針通リトシ
特ニ米國大統領選舉問題トモ睨ミ各々三國共同宣言ノ發出ヲ期ス。

第四内閣ノ第四動ニ對スル處置

一 東亞ニ於ケル方針

一 在支米空軍ノ驅逐ヲ大本營ニ要請ス

一 泰ニ使節ヲ派遣シ泰首腦部ト懇談シ對日信頼心ノ昂揚ヲ期ラシム

一 比島ノ獨立ヲ斷行スルト共ニ印度ノ進攻作戰ヲ大本營ニ要請シ併セ
テ印度ノ獨立謀略戰ヲ展開シ反樞軸陣營ヲ牽制ス

二 歐洲ニ對スル方針

一 獨ニ對シテハ獨ノ船舶事情ノ許容スル限り南方ノ石油ヲ供給シ獨ノ
戦力回復ヲ期ル

一 伊ガ樞軸ヨリ脱落スル虞アルトキハ獨ヲシテ船舶、兵器、軍需工場、
等ノ破壊ヲ斷行ス

三 空襲對策

一 國民士氣ノ昂揚ヲ期リ國民ヲシテ空襲ニ對シ巍然タル態度ヲ堅持セ
シム

- 〔一〕空襲被害ヲ即直ニ發表スルト共ニ流言蜚語ノ徹底的取締ヲ漸行ス
- 〔二〕戒嚴ハ之ヲ避クルモノトス但シ臺灣ニ於テハ狀況ニ依リ之ヲ漸行スル準備ヲ整フルモノトス
- 〔三〕急速ニ被害施設復舊回復ヲ圖ル
- 〔四〕戰時死亡傷害保險、空襲保險ノ加入ヲ勸奨ス
- 〔五〕都市ノ防空施設ヲ強化ス
- 〔六〕恒久對策トシテ都會人口ノ疎散ヲ圖ル

四 船舶對策

- 〔一〕船體檢修一元化ニヨル運用能率増進（大本營ニ要請）
 - 〔二〕船舶ハ全部海軍ニ徵傭シ民間技術ヲ徵用、海軍ト合辦之ガ運用ニ當ラシム（A・O船ノ廢止）
 - 〔三〕造船工場終夜業（二交代又ハ三交代制）ニヨル造船促進
 - 〔四〕護送制度ノ強化ニヨル船舶被害及雜路ノ輕減
 - 〔五〕木造船及ジャンクノ高度活用
- 西南方物資輸入減ハ日滿支資源ニヨリ極力之ヲ補填ス

第五内閣ノ第四動ニ對スル處置

一 統帥部ニ對スル要望事項

- (1) 在支航空軍並ニ空軍基地攻撃強化
- (2) 本土及臺灣等ノ軍防空ノ強化

(3) 復舊資金供與ノ爲融資命令ノ發動

(4) 重要生産建設計畫ノ急速實現

四 外交問題

(一) 日獨伊會談

日獨伊會談ニ臨シテハ從來ノ方針ニ變更ヲ認メズ

(二) 對佛印問題

(1) 對佛印ニ於ケル親英米派ノ所感、

(2) 泰、佛印國內ニ於ケル言論取締ノ強化

(3) 大東亞戰爭ノ本義ニ對スル反響、強調宣傳

(4) 比島獨立ノ急速實現ヲ期ス

フシム（A・O船ノ廢止）

（一）造船工場終夜業（二交代又ハ三交代制）ニヨル造船促進

（二）護送制度ノ強化ニヨル船舶被害及雜路ノ輕減

（三）木造船及ジャンクノ高度活用

（四）南方物資輸入減ハ日滿支貨源ニヨリ極力之ヲ補填ス

第五内閣ノ第四動ニ對スル處置

一、統帥部ニ對スル要望事項

（イ）在支敵空軍並ニ空軍基地攻撃強化

（ロ）本土及臺灣等ノ軍防空ノ強化

（ハ）海上交通保護ノ強化

（ニ）陸海軍及民間船舶ノ一元的統制運航（但シ作戰輸送ヲ除ク）

三、國內對策

（一）戒嚴令施行ノ問題

戒嚴令ノ施行ハ未ダ其ノ期ニアラズ、現在ノ人心不安ハ地方警察力ヲ以テ充分之ニ對處シ得ベク戒嚴ニ伴フ人心ノ沈滞ハ好マシカラズ、尙、軍衛戍部隊ト地方官憲トノ連繫密接ナリ。

（二）民防空ノ強化

敵機ノ空襲全國的ニ波及スベキ情勢ニ鑑ミ左ノ方策ヲ急速實施セン

トス。

（イ）都市ノ重要地帯ノ防火區劃ノ構成

（ロ）都市不要人口ノ疎散（住宅ノ徵用）

（ハ）消防機關、警防團、學校報國隊ノ急速充實

（三）流言ノ取締

流言取締ノ徹底ヲ期スルト共ニ適時適切ナル情報ヲ發表シテ人心不安ノ解消ヲ期ス。

（四）烈壯ヲ活用シテ都市人口疎散、流言防止等ニ當ラシム。

三、空襲被害對策

（イ）破壊サレタル重要生産施設ノ急速復舊

（ロ）戰時空襲保險關係法令ノ積極的活用

（ハ）復舊資金供與ノ爲融資命令ノ發動

（ニ）重要生産建設計畫ノ急速實現

四、外交問題

（一）日獨伊會談

日獨伊會談ニ關シテハ從來ノ方針ニ變更ヲ認メズ

（二）對佛印問題

（イ）對佛印ニ於ケル親英米派ノ斷絶、

（ロ）泰、佛印國內ニ於ケル言論取締ノ強化

（ハ）大東亞戰爭ノ本義ニ對スル反響、強調宣傳

（ニ）比島獨立ノ急速實現ヲ期ス

第六内閣ノ第四向ニ對スル處置

一、空襲對策

- (1) 食糧對策 被害地域ノ食糧ハ食糧營團及食糧國防團ノ活動ニ依リ直ニ應急配給ヲ了シ爾後モ食糧ノ不安ナシ
 - (2) 金融對策 預金ノ取付罹災者ニ對スル拂戻等ニ付テハ既ニ準備万全金融機關ノ貸出回收ノ制限、融資命令發動措置
 - (3) 電力對策 (1) 目下豐水時期ナルコト (2) 生産設備破壊ニ依ル需要減退スルヲ以テ差當リ問題ナキモノト認ム
 - (4) 生産力減退對策 (1) 鐵ハ輕操業ノ熔鑄爐ヲフルニ運轉セシム (2) 復舊ニハ物資並勞力(學生)ノ優先的配給
 - (5) 罹災民負傷者對策 現内閣ノ對策ノ活用ニ依リ万全ヲ期ス
- 二、國內治安問題
- (1) 戒嚴令布告ハ時期尙早ナリト認ム

但シ之ガ準備ヲ研究シ置クモノトス

- (a) 空襲被害ノ真相ヲ或程度公表シ民心ヲ安定セシメ、敵軍心ノ昂揚ヲ剛ルベキ宣傳戰ヲ展開ス
- (b) 悪質流言ノ取締強化

三、船舶對策

- (1) A、B船運賃ノ能率化並A、B、O船ノ綜合的運賃化
- (2) 木造船戒克ノ組織的活用
- (3) 支那難民ニ依ル南方荷役ノ増強
- (4) 鐵、石炭、水キサイト、米以外ノ物資輸送ノ壓縮

四、外交對策

- (1) 佛印ヲ軍政下ニ附キ暴ヲ索制ス
- (2) 泰ニ内而指導機關ヲ設置ス
- (3) 日獨提携強化策
- (4) 獨「タンカー」ニ對スル南方石油ノ供給
- (5) 亞歐航空路ノ開設

第五動 (七月、八月、九月) 情況

指 定 配 付 者	處 置
	演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係

一、七月以降「ニューギニア」方面彼我陸軍ノ本格的な展開シ之ニ伴フ航空戰機

歐 洲 關 係

一、獨ソ戰ハ獨軍優勢ナルモ大ナル進展ナク主トシテ航空消耗戰繼續シツツアリ

- 二、指導層ニ戰局ノ前途ヲ悲觀スルモノアリ
- 三、南方占領地ニ對シ飛行機潜水艇ヲ以テスル謀略甚シク比島人ノ一部動搖シツツアリ
- 三、南「ボルネオ」油田ノ損害約五〇%復舊ニ六ヶ月ヲ要ス
- 三、八月泰「ビルマ」連絡幹道完成セリ

めくれず

(2) 泰ニ内面指導機關ヲ設置ス
 (3) 日獨提携強化策

(1) 獨「タンカー」ニ對スル南方石油ノ供給
 (2) 亞歐航空路ノ開設

第五節 (七月、八月、九月) 情況

指 定 者	處 置
	演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係

一、七月以降「ニューギニヤ」方面彼我陸軍ノ本格的な戦闘展開シ之ニ伴フ航空戰機戰烈ナリ
 敵ノ長距離爆撃機ハ六〇乃至三〇機編隊ヲ以テ南「ボルネオ」油田地帯ヲ一〇回空襲セリ
 二、八月上旬敵ノ一部ハ「タニンバル」諸島ニ上陸交戦中ナリ
 三、九月下旬敵大艦隊北太平洋ニ現ハレ約一〇〇機ヲ以テ東京ヲ空襲スルト共ニ南島島ヲ爆撃セリ撃墜三〇機、我方損害關東地方飛行機製造力二〇%減(二ヶ月)爆撃機ニ甚破損(修復六ヶ月)官廳、住宅損失一万户罹災者一〇万人
 四、三ヶ月間ノ綜合戰果
 飛行機撃墜破二〇〇〇機以上我七〇〇機失
 商船擊沈二〇万吨 我二五万吨失
 五、大本營ハ飛行機ノ飛躍的増産ヲ一層強化スルコト要望セリ

一、東ソ兵力大差ナキモ、内線航空基地ノ増築顯著ニシテ時々米國型新鋭機現ハル
 日ソ國交ニ變化ナク米ソ國交ハ緊密化シアリ

二、指導層ニ戰局ノ前途ヲ悲觀スルモノアリ
 三、南方占領地ニ對シ飛行機潜水艇ヲ以テスル謀略甚シク比島人ノ一部動搖シツツアリ

三、南「ボルネオ」油田ノ損害約五〇%復舊ニ六ヶ月ヲ要ス
 三、八月泰「ビルマ」連絡鐵道完成セリ

歐 洲 關 係

一、獨ソ戰ハ獨軍優勢ナルモ大ナル進展ナク主トシテ航空消耗戰繼續シツツアリ
 二、「シシリー」島ハ八月米英軍ニ歸ス
 三、獨土戰依然激烈
 四、英北部ニ多數ノ船舶集中シアリ
 五、獨伊ノ通商破壞戰戰果
 三ヶ月間二〇〇万吨

一、西、葡ニ對スル彼我ノ警戒嚴重ナリ
 獨ハ西、葡進駐ノ意志ナキガ如シ
 二、「フランコ」統領及羅馬法王ハ九月中旬相前後シテ和平演說ヲナセリ

三、米ノ生産力昨年度ト同程度ト稱スルモ捕虜等ノ旨ニ徴スルニ若干低下ツ傾向ナリ

二、伊國內ニ敗戰思想抬頭シ伊政府ハ之ガ鎮壓指導ニ腐心シツツアル模様ナリ

三、米ノ生産力昨年度ト同程度ト稱スルモ捕虜等ノ旨ニ徴スルニ若干低下ツ傾向ナリ

めくれず

裏面白紙

第一内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一 和平問題及對中立國施策

(一) 對米英和平問題

(1) 敵側攻勢ヲ採リツツアル現在ハ和平提議ヲ行フ時期ニ非ズ

(2) 和平條件乃至ハ戰爭目的ヲ確定シ、適時發表スルニ備フ

(三) 對文和平問題
我方ヨリ取崩ニ接近、工作スルヲ避ケ、汪政權強化方針ヲ以テ進ム

(四) 獨蘇和平問題
斡旋ニ努ム

(五) 對中立國施策
對中立國ニ於ケル樞軸側不敗ノ態勢ヲ徹底的ニ宣傳ス

(六) 對戰爭目的ヲ宣傳了解セシム

(七) 對敵軍侵入ニ備フル兵力増配ヲ行フ

第二 國民指導及之ニ關聯スル國民組織

1 戰時意識昂揚國內結束體制ノ強化

2 上意下達下情上通ノ實踐

3 之方爲各階層幹部ノ率先垂範下次ノ國民組織化ガ要諦タリ

4 大政翼贊會ト翼贊政治會ノ台體

5 部活會、町内會、隣保班等地域の組織ノ確立強化

6 職工農商等各種職能別組織ノ整備確立

7 議會及地方自治制度、再檢討

8 航空兵力増強對策

(1) 飛行機ノ増産

(2) 材料ノ確保

(3) 下請工場ノ強化

(4) 技術指導、部品ノ製造専門化、熟練工ノ確保

(5) 高生産製造方式採用

(6) 設備ノ減少

(7) 全面的二交代制ノ採用

(8) 設備整備(必要機材等ノ重點配備)

(9) 機材整備(必要機材等ノ重點配備)

(10) 搭乗員
1 航空志願ノ徹底

2 乘員養成設備ノ充實

3 高層建築等ノ航空受容ノ調整

四 石油問題
1 精油裝置(内外地)ノ急速増設完成

2 油槽船ノ建造促進

3 人造石油製造促進

4 國內油田ノ開發、採掘促進

指
定
配
付
者

處
理
了
後
直
ニ
返
却

裏
面
白
紙

第二内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一、和平問題中立國施策

(一) 反極軸軍ニ相當有利ニ展開セラレアル戰局ノ現状ニ於テ日本ヨリ和平ヲ提議スルハ戰争目的ト絶對ニ兩立シ得ザルベキヲ以テ和平提議ハ其ノ時機ニ非ズ尙餘側ヨリスル和平提議ニ付テハ現状維持ヲ前提トシ之ニ應ズルノ考慮アリ

(二) 獨ノ新秩序建設ヲ目途トスル強硬ナル戰争目的ニ鑑ミ特ニ前大戦ニ於テ獨ノ蒙ムレルニガキ經驗ニ徴シ戰局ノ現段階ニ於テ獨ノ對米英軍獨和平ハ實現性ナキモノト認ム

(三) 伊ニ付テハ國內ノ分裂的現状ニ於テ戰前ノ狀態復歸ヲ前提トシ和平ノ舉ニ出ツルノ虞アルモノト判断ス

二、國民指導

(一) 指導者ノ養成

國民指導ニ最モ重大ナルハ指導者ノ良否ナルヲ以テ從來通り指導者ノ養成ニ全力ヲ結集ス

指導者ハ現壯ヲ中心トシ政府、親賢會ト一體的活動ヲナサシム

隣国ヲ強化育成ス、特ニ母性指導ニ留意ス
(四)政黨利用

從來ノ政黨ハ一應解消セラレタルモ舊政黨人ノ地方ニ於ケル潜在的勢力ニ鑑ミ之ヲ善用シテ國家ノ要請ニ沿ハシメ漸次其壯ニ合一セシムル如ク指導ス

三、飛行機増産ト石油問題

(一)航空兵養成對策

1 現代戰ニ於ケル航空機重要性認識ノ徹底特ニ母性ニ對シテ

2 航空兵ノ大々的養成

3 學校教育ニ於ケル航空教育ノ徹底

4 國民地位ノ向上特ニ近視眼對策

(二)飛行機増産對策

1 從來ノ方策ノ強化徹底

2 木造飛行機ノ作成

3 陸海軍飛行機ノ規格ヲ漸次統一スルコトニ依ル生産ノ能率化

(三)石油對策

1 南方石油ノ開發ニ一路邁進ス

2 航空兵ノ養成ヲ南方石油産地ニ於テ實施

第三内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一、和平問題及對中立國施策

(1)世界全面和平問題

(1)世界全面和平問題ニ就キテハ慎重ニ對處シ苟モ我ヨリ焦リアルガ如キ觀ヲ與フル事ハ嚴ニ之ヲ戒シム。

(二)飛行機ノ増産

飛行機ノ飛躍的増強ヲ促進シ併ヒテ

(1)木製飛行機及「グライダー」ノ急速増加

(2)陸海軍ノ企制統一

(三)乘員ノ増強

(1)不要不急ノ專問學校以上ノ學校閉鎖ヨリ學生ヲ航空要員ニ充當

(2)中學校ニ於テ飛行機ノ基礎教育及グライダー教育ノ實施 (ハ民間航空乘員ノ急速増強

(四)石油問題

(1)航空用揮發油ハ南方占領地區ノ開發ニヨリ支障ナキモノト認ム、

(2)重油潤滑油ニ付テハ極力南方資源ノ開發ニツトムルト共ニ化學的

めくれず

- 1 從來ノ方策ノ強化徹底
- 2 木造飛行機ノ作成
- 3 陸海軍飛行機ノ規格ヲ漸次統一スルコトニ依ル生産ノ能率化
- (四) 石油對策
 - 1 南方石油ノ開發ニ一路邁進ス
 - 2 航空兵ノ養成ヲ南方石油産地ニ於テ實施

第三内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一 和平問題及對中立國施策

(1) 世界全面和平問題

(1) 世界全面和平問題ニ就キテハ慎重ニ對處シ苟モ我ヨリ焦リアルガ如キ觀ヲ與フル事ハ嚴ニ之ヲ戒シム。

(2) 法王騰及「フランコ」ノ和平提唱ハ之ヲ默殺ス。但シ其内容及出處ヲ極秘裡ニ調査スルト共ニ其推移ハ之ヲ注視ス。

(2) 獨「ソ」和平問題

獨ニ對シ獨「ソ」和平ヲ重ネテ勸告ス。其具體策ハ當内閣從前ノ方針通りトス。

(3) 獨ノ對米英單獨和平問題

伊ヲ呼聲シ三國提携ヲ強化シ戰爭完遂ヲ期スルモ他面獨ノ對米英單獨和平動向ニ注意ス

(二) 對中立諸國施策

(1) 中立諸國ニ對シテハ更ニ積極的ニ樞軸側ニ好意ヲ有セシムル如ク利導スルト共ニ少クモ依然中立ヲ維持ヒシムル如ク政治的、思想的、思想的施策ヲ行フ。

(2) 中立諸國ヲ利用シテ諾情報就中和平問題ニ關スル情報ノ收集ヲ期ス

ニ國民指導(國民組織)

舉國一致生産力増強ニ邁進スルニ於テハ絕對ニ勝利ハ我方ニ在ルコトヲ繰返シ宣明スルノ外左ノ如ク措置ス

(1) 天皇歸一精神ノ徹底

(2) 大政翼贊會ノ強化

(3) 帝國議會議員及翼贊會ノ利用

(4) 職能組織ノ強化

三 飛行機ノ増産ト石油問題

(一) 飛行機ノ増産

飛行機ノ飛躍的増強ヲ促進シ併ヒテ

(1) 木製飛行機及「グライダー」ノ急速増加

(二) 乘員ノ増強

(1) 不要不急ノ專門學校以上ノ學校閉鎖ヨリ學生ヲ航空要員ニ充當

(三) 石油問題

(1) 航空用揮發油ハ南方占領地區ノ開發ニヨリ支障ナキモノト認ム、

(2) 重油潤滑油ニ付テハ極力南方資源ノ開發ニツトムルト共ニ化學的

研究ニヨル生産増充ヲ早急ニ實現ス

裏面白紙

めくれず

第四内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一、和平問題（對中立國施策）

- (1) 全面的和平ハ時機尙早ナリト認ム
- (2) 和平ニ關スル中立國ノ動向ニ付充分注意ス
- (3) 獨ソ兩國ノ和平ニ對シ極秘裡ニ之ヲ斡旋ス
- (4) 汪蔣合作ニ付引續キ裏面工作ヲ行フモノトス

二、國民指導國民組織ノ問題

(1) 國民指導

- (1) 益々國体明徴ノ徹底ヲ期シ決戰意識ノ昂揚必勝信念ノ堅持ヲ圖ル
- (2) 左翼的策動及反戰思想ヲ抑壓ス
- (3) 生活ニ關聯ヲ持つ具體的問題ヲ指示シ徒ラナル觀念論ヲ排ス
- (4) 指導者層ノ自縮ヲ豫慮シ其ノ率先垂範ヲ期セシム
- (5) 都市及農村ノ指導ニ當リテハ兩者間ノ調睦ニ留意ス

(2) 國民組織

三 航空兵力増強、石油対策

- (1) 飛行機製作工場ノ繰返復舊、増設能率増進
 - (2) A B 管理ノ一元化ヲ図ルト共ニ可及的ニ A B 規格ノ統一ヲ行フ
 - (3) 木造飛行機ノ採用
 - (4) 軍官民航空教育施設ノ増充
 - (5) 學生、生徒ニ對スル航空教育ノ徹底ト操縦技術ノ普及
- (四) 石油対策
- (1) 被害地區ノ可及的速カナル復舊
 - (2) 南方砂糖及澱粉質ニ依ル航空燃料ノ増産
 - (3) 潤滑油増産

第五内閣ノ第五勅ニ對スル處置

一 和平問題ト對中立國政策

(一) 和平問題

- (1) フランコ統領及羅馬法王ノ和平演説ハ重視セズ、機會ヲ見テ情報
司總裁談、程度ノモノヲ以テ、我方ノ戰爭目的ヲ強調ス
- (2) 但シ獨ソノ和平ニ關スル好機ノ捕捉ニ勉ム

(二) 對中立國政策

獨伊ヲシテ中立國ニ對シテ一層密接ナル連絡ヲ保タシメル様、努力
ス

三 國民指導（國民組織）ノ問題

- (1) 國民ノ精強分子ヲ以テスル中核組織ヲ中央地方ニ確立（地域別、職
場別）シ戦力増強志氣昂揚ノ推進力タラシメントス
之ト重複スル既存ノ政治公団體ヲ解消ヒシム。
- (2) 帝國不敗ノ態勢ヲ認識セシメ國民ノ奮起ヲ望ム。

三、航空兵力増強方策

(一) 航空機増産方策

- (1) 航空機生産能率ノ飛躍的増進
- (2) 航空機製作技術及研究機關ノ交流又ハ統一
- (3) 航空機規格(特ニ陸海軍相互間ニ於ケル)ノ統一ノ徹底
- (4) 生産資材及勞務ノ確保

(二) 航空要員充足方策

- (1) 中等學校以上ノ諸學校ニ於ケル航空基礎知識ノ涵養並ニ航空適性検査ノ施行
- (2) 航空要員養成機關ノ擴充強化

(三) 義務制ニ依ル航空要員ノ確保

(四) 石油問題

- (1) 被管油田ノ可及的速ナル復舊及南方油田開發強化
- (2) 大規模ナル砂糖、ゴム、椰子等ヨリスル燃料製造事業ノ促進

第六内閣ノ第五勅ニ對スル復讞

一、和平問題

- (1) 大東亞戰爭ノ和平ハ未ダ其機ニ非ズ。
- (2) 歐洲關係ニ於テ伊太利單獨和平ノ危險アリ。之ガ對策トシテ樞軸國ノ戰團決意ヲ新ニ宣明スル爲第二次三國會談ヲ開催シ、共同宣言ヲ行フ。尙土耳其ノ切崩シヲ策ス
- (3) 對ソ戰爭和平可能性ナシ。全面的世界戰爭ノ和平ニ就キテモ同ジ。
- (4) 對中立國施策、從來通り警戒ヲ嚴ニシ、三國會談ニ依ル樞軸側ノ不拔ノ戰意ヲ示ス。
- (5) ソ滿國境ニ兵力増強ヲ行ヒ、米ソ國交緊密化ニ對スル無言ノ威力ヲ示ス(大本營ニ要望)

二、國民指導、國民組織

- (1) 國民指導、戰局ノ現段階ヲ國民ニ認識セシメ、空襲ニ依ル敵愾心ノ昂揚ヲ圖ル

（四）國民組織

(イ) 先づ各種指導團體ヲ統一シ國民指導組織ノ一元化ヲ圖ル
 (ロ) 次イデ町會、隣保組織ヘノ連繫ヲ強化シ下部組織ヘノ浸透ヲ圖ル
 三、飛行機ノ増産ト石油問題

（一）飛行機増産

飛行機

(イ) 「アルミニウム」會、部ヲ飛行機生産ニ充當ス
 (ロ) 支那ニ於ケル「アルミ」(從來ノ方針強化) 銅、銀、錫ノ回收
 ヲ圖ル

(ハ) 木造飛行機ノ生産促進

（二）乗員

(イ) 學生全部ニ亘リ航空適性ノ検査ヲ行ヒ航空機乗員ノ義務制ヲ實施ス
 (ロ) 養成期間ノ短縮、採用基準ノ緩和

（三）石油問題

(イ) 石油ノ消費規正ノ徹底化
 (ロ) 「初乙」トノ技術提揚ニ依ル人造石油製造ノ促進

第六動（十月、十一月、十二月）情況

大 東 亞 關 係 歐 洲 關 係

一、十月上旬北太平洋大海戰

一、十月上旬米英軍諾威北部上陸ヲ企圖シタル

ツツアリ

三、米麥ノ實收高昨年度ト同程度
 三、船舶修繕額過シ一三〇萬屯ニ達スル見込
 外ニ木造船七〇萬屯

配指	考定
處理	演習終了後直ニ返却

（イ）木造飛行機ノ生産促進
（ロ）乗員

（ハ）學生全部ニ亘リ航空訓練ノ普及ヲ行ヒ航空機乗員ノ業務訓練ヲ實施ス
（ニ）養成期間ノ短縮、採用基準ノ緩和
（ホ）石油問題

（イ）石油ノ消費規正ノ徹底化
（ロ）「初乙」トノ技術提携ニ依ルル人造石油製造ノ促進

第六動（十月、十一月、十二月）情況

配指 付者定	
處理	演習終了後直ニ返却

大 東 亞 關 係 洲 關 係

一、十月上旬北太平洋大海戦
敵味方全力参加
擊沈戦艦五隻、空母一三隻、巡艦八隻、
驅一八隻、隊艦破八〇〇以上

我損害、戦艦三隻、空母五隻、巡艦四隻
驅一五隻沈没、飛行機三〇〇以上

二、「ニューギニヤ」方面取況我ニ有利ニシテ
敵ヲ南方ニ壓迫シツツアリ

三、十月ヨリ緬甸戦再興シ相當激烈ナリ
英將陸路連絡不成功

四、三ヶ月間ノ綜合戦果及損害
飛行機撃墜破三〇〇以上、我八〇〇
以上、商船撃沈二〇萬屯、我二三萬屯失

一、支那人漸次不遜トナル
二、佛印泰ノ我ニ對スル信賴薄レ行ク傾向アリ
三、十月十日日比島ハ獨立ヲ宣言シ樞國諸國
ハ之ヲ承認セリ

二、英米ハ日本ノ損害ヲ大々的ニ誇張宣傳シ
ツツアリ

三、米麥ノ實收高昨年度ト同程度
三、船舶建造増進シ一三〇萬屯ニ達スル見込
外ニ木造船七〇萬屯

一、十月上旬米英軍諾威北部上陸ヲ企圖シタル
モ獨ノ海上空襲ニ依リ引返セリ
二、獨空軍ノ海上作戰能力著シク向上シ海面防
禦、通商破壊ニ偉功ヲ奏シツツアリ
三、獨ソ戦、獨土戰依然タルモ大勢ヲ變化スル
程度ニ達セズ
四、獨伊ノ通商破壊戦戰果
三ヶ月間一八〇萬屯

一、十二月八日米英ハ樞國無條件降服迄戰フ
旨宣言セリ

一、米英ソ間要人往來頻繁ナリ
二、三日獨伊三國會談ニ關シ交渉中ナリシ所
十月上旬ニ至リ明年一月右會談ヲ東京ニ於
テ開催ノコトニ意見一致セリ

裏面白紙

第一内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一 三國會談

〔組織、三國代表ハ各外相トス、軍事、經濟、技術隨員ヲ伴フ〕
 〔議題、日蘇問題、獨蘇問題、三國共同宣言案、戰爭目的、戰後經營問題、三國共同作戰問題、經濟、技術相互援助問題〕

〔戰爭指導方針、日對伊間連絡路強化（獨蘇和平、航空機、艦船）東亞、歐洲要路化、地中海遮斷作戰斷行〕

二 船舶（造船及運送）並ニ陸運問題

〔鋼船及木造船ノ建造強化特ニ造船關係事業（鐵鋼、非鐵金屬、木材、塗料等）ノ重點的協力ノ促進〕
 〔晝夜作業ノ實施〕

〔沈沒船ノ引揚促進〕

〔南方其他現地ニ於ケル木造船ノ建造並ニ所要技術員及工員ノ現地養成ノ促進〕

〔南方其他現地ノ造船及修理能力ノ早急復舊〕
 〔海員養成機關ノ擴充〕

〔輸送分野ノ調整及陸海輸送力ノ綜合運營〕
 〔在港期間ノ短縮並ニ貨物引取ノ迅速化（配給制度ノ刷新）〕
 〔陸運轉移ノ強化〕

〔小口貨物ノ抑制強化〕

〔旅客輸送ノ抑制徹底〕

〔地域別（東京、大阪、福岡等中心）私鐵ノ交通營團化〕
 〔私鐵及バスノ一元の運賃体制ノ強化〕

〔貨物線ヲ主トスル私鐵ノ國境吸收〕
 〔私鐵ノ貨物輸送協力〕
 〔港荷役能力ノ確保（半島人、本島人、支那人勞務者ノ利用）並ニ機械化〕

〔輸送行政査察ノ強化〕
 〔A B O 船ノ統一運營〕
 〔左記諸項ヲ研究早急實現ヲ期スルコト〕

〔大東亞鐵道一元化〕
 〔大東亞鐵道連絡ノ早期完成（ラングーン、南一東京）〕
 〔南洋ノ戰時中備船〕
 〔コンクリート船ノ建造〕

配指	指
付者	定
處理	演習終了後直ニ返却

裏面白紙

第二内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一 三國會談

(一) 組織 獨伊外務大臣級及軍主腦者

(二) 議題

(1) 對豫問題

(2) 戰略問題

(3) 技術物資交換問題

(4) 和平問題

(三) 今後ノ戰爭指導

(1) 樞軸一體トナリテ戰勝目的ニ邁進スルノ決意ヲ新々ニスルコト

(2) 樞軸連絡路確保ヲ目途トスル作戰ヲ展開スルコト

(3) 通商破壞戰ヲ南洋ニ於テ一層強力ニ遂行スルコト

二 造船問題

(一) 造船對策

既定ノ造船計畫ヲ強力ニ遂行スルノ外左ノ措置ヲナス

(1) 木造船及ジャンクノ支那、南方等現地建造ノ強力促進

めくれず

(ロ) 代用船トシテ海洋筏等ノ急速建造
(三) 船舶運營

(イ) 外國船利用ノ強化
(ロ) 船舶運營ノ一元化

(ハ) 港灣ノ改良特ニ港灣荷役設備ノ機械化
(ニ) 荷役勞務ノ強化
(ホ) 船車連絡施設ノ強化

(三) 陸 運

(イ) 重點輸送ノ徹底

(ロ) 車輛増備、線路改良

(ハ) 小運送能力ノ強化

(A) 勞務員

(B) 貨物自動車

(ロ) 荷馬車

第三内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一三國會談

(一) 總 論

(イ) 既存ノ混合委員會ヲ活用ス

(ロ) 獨伊ヨリ外務大臣及參謀次長級ノ人物ヲ招致ス。

(ハ) 日獨伊三國ノ會談トシ爾余ノ同盟加入國ハ之ヲ會談ニ加ヘズ。

(一) 樞軸側ハ結束ヲ強化シ緊密ナル政治的、實事的經濟的協同ニヨリ戰爭ヲ完遂ス。

(二) 樞軸側ハ主戰力ヲ米英ニ指向シ之ガ迅速擊滅ヲ期ス、之ガ爲

(イ) 獨ハ獨ソ和平或ハ己ムヲ得ザルモ東守西攻ノ方針ニ依リ「ジブラ

ルタル」ヲ攻略シ又「ダーダネルス」海峡ヲ掌握シ對近中東進出

ノ據點ヲ確保シ以テ地中海態勢ノ改善ヲ圖ルト共ニ通商破壞、對

英本土空襲ヲ激化ス

(ロ) 帝國ハ占領地ノ開發建設ニ努メ戰力擴大ヲ圖ルト共ニ通商破壞ヲ

激化ス

ソ聯ニ對シテハ米ソヲ離間シ大東亞戰爭ニ好意的中立ヲ保持セシ

めくれず

- (A) 勞務員
- (B) 貨物自動車
- (C) 荷馬車

第三内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一 三國會談

(一) 組織

- (1) 既存ノ混合委員會ヲ活用ス
- (2) 獨伊ヨリ外務大臣及參謀次長級ノ人物ヲ招致ス。
- (3) 日獨伊三國ノ會談トシ爾余ノ同盟加入國ハ之ヲ會談ニ加ヘズ。

(二) 議題

(1) 政治問題

(1) 戰爭指導

- (A) 樞軸全般ノ戰爭指導
- (B) 獨伊ノ歐洲ニ於ケル戰爭指導

1 獨ソ和平問題

2 對ソ問題

3 「ジブラルタル」攻略問題

(右ハ獨西共同防衛ノ形式ヲトリ對土作戰ハ差當リ「ダーダネルス」海峽ヲ掌握スル程度ニ留ム)

(2) 對中立國施策問題

樞軸側ノ戰果ヲ宣傳シ我方ニ好意ヲ寄セシムル如ク施策

(B) 和平問題

世界全面和平問題ハ慎重ニ對處シ苟モ我ヨリ焦リアルガ如キ觀ヲ與ヘル事ハ嚴ニ戒シムルモ我方戰果ノ影響トモ睨ミ合セ其機微ナル動向ニ對シ遺憾ナキヲ期ス

(B) 同盟強化問題

- (A) 三國協定精神ノ確認
- (B) 三國共同宣言ノ聲明

(C) 軍事問題

省略

(D) 經濟問題

技術、物資ノ交流具體的促進

二 戰爭指導方針問題

(一) 樞軸側ハ結束ヲ強化シ緊密ナル政治的、軍事的經濟的協同ニヨリ戰爭ヲ完遂ス。

(二) 樞軸側ハ主戦力ヲ米英ニ指向シ之ガ迅速擊滅ヲ期ス、之ガ爲

- (1) 獨ハ獨ソ和平或ハ己ムヲ得ザルモ東守西攻ノ方針ニ依リ「ジブラルタル」ヲ攻略シ又「ダーダネルス」海峽ヲ掌握シ對近中東進出ノ據點ヲ確保シ以テ地中海態勢ノ改善ヲ圖ルト共ニ通商破壞、對英本土空襲ヲ激化ス
- (2) 帝國ハ占領地ノ開發建設ニ努メ戦力擴大ヲ圖ルト共ニ通商破壞ヲ激化ス

ソ聯ニ對シテハ米ソヲ離間シ大東亞戰爭ニ好意的中立ヲ保持セシ

めくれず

裏面白紙

ノ尙爲シ得レバ前項歐洲ニ於ケル施策ト相俟テ樞軸側ヘノ誘引ヲ
圖ル。

三 船舶對策

丁 造船

- (イ) 造船工場ノ海軍移管（民有國營）
 - (ロ) 造船工場ノ交替制ノ徹底ニヨリ造船促進
 - (ハ) 木鐵交造船、木船ノ急造
 - (ニ) 造船工ニ對スル給與ノ優先
- #### 四 運 營
- (イ) 港口關係地方行政廳ノ統合
 - (ロ) 荷役能力ノ増進
 - (ハ) 木船、戒克ノ利用促進

四 陸 運

旅客列車ノ壓縮ニ依ル貨物輸送ノ増強

第四内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一、三國會談

□ 組織

(イ) 各國代表

日本 東條首相
 獨逸 リッペンドロップ
 伊太利 チアノ

□

(ロ) 各國大本營幕僚首腦部及經濟當局者ヲ隨員トス
 (ハ) 議題及帝國ノ主張

(ニ) 情況交換(戰況及生産力狀況)
 (ホ) 戰爭指導方針

(1) 日本ハ依然重點ヲ米ニ指向シ先ツ米穀連絡路ノ遮斷ニ依ル途ノ
 孤立ヲ計リ爾後狀況ニ依リハワイ攻略、太平洋軍需工場施設、
 パナマ運河爆撃等ニ依ル積極的消耗戰ヲ展開ス
 (2) 獨ハ急速ニ對ソ和平ヲ斷行シ伊トノ緊密ナル協力ノ下ニ重點ヲ
 土ニ指向シテ之ガ匿伏ヲ圖ルト共ニ英ニ對シテ通商破壊、生産
 施設破壊ニ依ル戦力低下ニ努ムルモノトス

めくれず

(5) 戰爭終末ハ日本ノ戦力増強ヲ俟チテ印度ヲ攻略シ獨ノ英國封鎖
作戦完遂ニ依リ先ツ英ヲ屈伏セシメ次イテ米トノ和平ヲ策ス
(4) 印度ニ對シテハ反英謀略戦ヲ展開シ印度進攻ニ呼應シテ内亂誘
發ヲ圖ル

(3) 各國共黨而其ノ占領地統治ノ浸透、生産増強ニ努ムルモノトス
ハ獨ソ和平問題

(2) 中立國問題

西、葡ニ對シテ依然中立ヲ固守セシムル如ク緊密ナル接觸ヲ保持
シツツ強力ナル宣傳戦ヲ展開スルモノトス

内物資、技術及三國間交通問題

ハ對米英和平條件ニ關スル問題

ハ三國共同聲明ニ關スル問題

三 船舶對策

□ 船腹對策

(1) 造船促進 ▲ 民營造船所ハ生産能率ニ比例シテ報償サルルガ如ク措

置シ極力増強セシムル一而、國家又ハ營國直營工場ヲ増設ス

○ 材料増配及配給円滑化、下請工場強化、勞力効力確保

○ 終夜業別(二交代又ハ三交代)ノ採用

○ 技術交換規則等低能率低技術工場ノ整理

○ 木造船造船促進(陸上建築制限ニヨル材料、勞力ノ転用)
○ 電氣熔接ノ高度活用

(2) 沈船引揚促進

(3) 獨乙船舶ノ回航利用(三國會談ニテ要請)

□ 運管對策—輸送力強化

(1) 運管機構一元化ニヨル運用能率増進(大本營ニ要請) 船舶ハ一元
的ニ海軍ニ徵備シ、海軍傘下ニA B O 技術ヲ合體之ガ運用ニ當ラ
シム

(2) 木造船及ジャンク、被曳船、海上筏等ノ高度活用

(3) 運航及港口作業ノ徹底的能率増進

(4) 海上輸送、陸上轉移ノ一段々強化

陸運—旅客列車ノ削期の壓縮、客車ノ貨車ヘノ改造

運用効率向上、不要不急路線ノ重要路線ヘノ徹底的轉移

内陸送ノ強化

第五内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一、三國會談問題

(一)組織 獨伊側、外務大臣竝ニ作戰部門擔當者日本側、政府統帥府首腦者

(二)議題

(1)協同作戰緊密化ノ問題

(2)經濟提携問題

(3)獨蘇和平問題

(4)占領地處理問題

(5)樞軸國協同宣言問題

(三)今後ニ於ケル戰爭指導問題

(1)今後ノ戰爭指導方針

(2)樞軸國協同ノ外交戰、思想戰ノ活發展開

(3)獨蘇和平促進

(4)作戰ノ緊密化(通商破壞戰ノ強化等)

(5)獨蘇和平成功後ノ戰局的優位ニ乘ジ絕對不敗戰勢ノ確立ヲ期ス

めくれず

三、船舶問題

(一) 造船政策

從來ノ諸方策ヲ強化徹底スルノ外「コンクリート」船ヲ建造利用ス

(二) 船舶運管政策

(1) 陸海軍及民間船舶ノ一元的統制運航

(2) 戒克海洋後ノ利用

(3) 港湾施設ノ整備改善

(三) 陸運問題

(1) 貨物輸送中心主義ノ徹底

(2) 陸運行政ト港務行政トノ統合一元化

第六内閣ノ第六勅ニ對スル處置

一、三國會談

(一) 組織

政府及軍部代表者並顧問委員ヲ參加セシム

(二) 議題

(1) 對「ソ」問題

(2) 世界和平ノ問題

(3) 今後ノ戦争指導方針ニ關スル問題

(4) 樞軸提擡強化問題

(5) 對中立國問題

(6) 戦後經營問題

(7) 對反樞軸共同宣言問題

(三) 今後ノ戦争指導方針

(1) 日本ハ北方作戦準備ニ万全ヲ期シ「ソ」ニ對シ無言ノ威カヲ加フ

ルモ進シテ對「ソ」開戦セズ依然米英露減ニ適進ス
 (ロ)獨ハ出來得ヘクシハ獨「ソ」和平シテラ米英露減ニ頂點ヲ指向ス
 (ハ)「トルコ」ヲ脱落セシム

三 船舶間口

□ 造船

- (イ) 二交代制ノ採用
- (ロ) 雨天作業設備

(ハ) 材料特ニ厚板及塗資材ノ確保

□ 運營

(イ) A・B船運營ノ能率化並A・B・C船ノ綜合的運營化

(ロ) 木造船戒克ノ組織的活用

(ハ) 鐵、石炭、ボークサイト、米以外ノ物資輸送ノ壓縮

□ 陸運

- (イ) 從來ノ政策ノ強化
- (ロ) 小運送ノ活用

第一勁以來ノ彼我損害比較

敵方 我方

指 定 者	配 付
理 者	演習終了後直ニ返却

一 艦艇	五隻 ⁽¹⁾	三隻(伊三)
二 空母	一四隻	五隻
三 巡洋艦	一〇隻(三)	六隻(伊四)
四 驅逐艦	二二隻(五)	一七隻(伊八)
五 商船	一三三〇万屯	一三八万屯 ⁽²⁾

内訳 我ニヨルモノ 一八〇万屯
 獨伊ニヨルモノ 一四〇万屯

三 飛行機 一〇一〇〇機 三五〇〇機

四其他

船三三熔爐四基
其他空襲ニヨル被害多数

(註)

(1) 括弧内数字ハ外敵ニシテ「シシロ」沖海戦ノ戦果ナリ
(2) 昭和十八、十九兩年度ノ船舶新造高左ノ如シ(單位千屯)

	昭一八年	昭一九年	計
銅船	一、二〇八	一、三〇〇	二、五〇八
木造船	三六〇	七〇〇	一、〇六〇
計	一、五六八	二、〇〇〇	三、五六八

昭和十八年度第一回總力戦机上演習研究會次第

指 定
配 付
以 理
演習終了後直ニ返却

日	時刻	内 容 事 項	演 述 者
三十日	〇八三〇 一一五〇 一五〇〇 一四〇〇	一 開 會 二 演習指導ノ要點 三 大東亞新秩序建設方略研究上左ノ問題ニ對スル着眼點 (1) 大東亞現勢力圖ノ戰略的價値 (2) 大東亞共榮圈ノ構想 (3) 對敵宣傳 四 皇國陛下ノ重要問題補遺上	統帥補助官 各軍司令部指定審判官 演習員 審判官

	<p>記</p>
<p>一四一五 一五〇〇</p>	<p>一、研究會主催者ヲ統監補佐官トス 二、附述ハ取以又ハ國家公報ニ觸レズ且個人ニ對スル批判ヲ避ケルモノトス 三、演習員ノ附述ニ對シ審判官ハ質問又ハ所見ヲ附加スルコトヲ得 四、附述ハ簡明ヲ旨トシ併セテ文書ヲ以テ提出スルモノトス</p>
<p>其今次机上演習ニ關スル所見 六統監訓示 七明會</p>	

SA # 150 I

2. 11

Am # 10

350141

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Proj. No. 113
 A. No. 158227
 Book No. 11
 Com. No. 2/A

昭和十八年度基礎研究
 第二課題(其二)作業
 独・米・英・蘇・重慶ノ国力判断

軍極秘

外機密

10-3

治事

總力戰研究所調製

国立公文書館
 分類 3 A
 配架番号 14
 10-3

文書番號	總研甲第
一連番號	第 5 冊
調製年月日	昭和十八年九月一日
調製部	武 拾 部
頁數	貳 五 〇 頁
備考	所内、退所、捺返、却、所外、指定、期間、以内、返却

昭和十八年基礎研究 第二課題（其ノ二）

「獨、伊、米、英、蘇、重慶ノ國力判斷」實施要綱

昭和十八年七月三日稿

めくれず